

0001 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：基礎

歯科衛生士が行う歯科予防処置の目的として最も適切なのはどれか。

- ア．歯科疾患の予防と口腔衛生の向上に寄与すること
- イ．歯科医師の診断を代替して独立開業すること
- ウ．歯科技工物の製作のみを行うこと
- エ．症状のある歯をすべて抜去すること

答え・解説 正答：ア

ア：歯科衛生士法は、歯科衛生士の資格を定め、歯科疾患の予防と口腔衛生の向上を図ることを目的としている。
イ：歯科衛生士法上の業務範囲とは異なる。
ウ：歯科技工士の業務と混同している。
エ：予防処置の目的ではない。

総合解説：歯科衛生士法は、歯科衛生士の資格を定め、歯科疾患の予防と口腔衛生の向上を図ることを目的としている。
歯科予防処置は疾患発症・進行リスクを下げる専門的介入である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0002 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：基礎

歯科衛生士法に定める歯科疾患の予防処置に該当するのはどれか。

- ア．病理組織診断を確定すること
- イ．全身麻酔下手術を独立して執刀すること
- ウ．歯科技工物の最終製作を行うこと
- エ．歯牙露出面等の付着物・沈着物を機械的に除去すること

答え・解説 正答：エ

ア：歯科衛生士の予防処置業務ではない。
イ：歯科衛生士の業務範囲ではない。
ウ：歯科技工士の業務である。
エ：歯科衛生士法第2条には、付着物・沈着物の機械的除去や歯牙・口腔への薬物塗布が予防処置として規定されている。

総合解説：歯科衛生士法第2条には、付着物・沈着物の機械的除去や歯牙・口腔への薬物塗布が予防処置として規定されている。国家試験では予防処置の目的と具体的行為を対応させる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0003 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：基礎

歯科予防処置を歯科衛生過程に沿って進める最大の利点はどれか。

- ア．すべての患者へ同一の処置手順を固定できる。
- イ．収集した情報から問題・目標・介入・評価を一貫して結び付け、患者ごとに計画を見直せる。
- ウ．診査を省略して処置時間だけを短縮できる。
- エ．評価を行わず一度決めた計画を継続できる。

答え・解説 正答：イ

- ア：歯科衛生過程は個別のアセスメントに基づいて計画を調整するために用いる。
- イ：歯科衛生過程を用いると、アセスメントから評価までの判断根拠をつなげ、患者固有のリスクや反応に応じて計画を更新できる。
- ウ：アセスメントは過程の重要な基礎である。
- エ：評価結果に応じた再計画が歯科衛生過程の特徴である。

総合解説：歯科衛生過程を用いると、アセスメントから評価までの判断根拠をつなげ、患者固有のリスクや反応に応じて計画を更新できる。 予防処置を単発の手技ではなく、継続的な問題解決過程として扱う。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0004 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：標準

歯科予防処置前のアセスメントとして最も適切なのはどれか。

- ア．患者情報を確認せず全員に同じ処置を行う
- イ．全身状態、生活習慣、口腔内所見、セルフケア状況などを系統的に収集・分析する。
- ウ．歯石の有無だけを見て他の情報は確認しない
- エ．評価指標を設定せず処置のみ行う

答え・解説 正答：イ

- ア：個別のリスクとニーズを把握する必要がある。
- イ：アセスメントは歯科衛生過程の出発点で、患者固有の問題・リスク・資源を把握する。
- ウ：全身・行動・口腔情報を統合する。
- エ：後の評価に必要な基準を設定する。

総合解説：アセスメントは歯科衛生過程の出発点で、患者固有の問題・リスク・資源を把握する。 予防処置は単なる手技ではなく、アセスメントに基づいて選択する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0005 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：標準

予防計画に「もっと丁寧に磨く」とだけ記載されていた。評価可能な目標へ修正する例として最も適切なのはどれか。

- ア．患者が気が向いた時だけ努力する。
- イ．歯科衛生士が良いと思えば達成とする。
- ウ．口腔内をいつか完全にきれいにする。
- エ．次回来院までにPCRを初診時より低下させ、磨き残しが多い歯間部の清掃法を患者が実演できる。

答え・解説 正答：エ

- ア：期限や達成基準がなく評価できない。
- イ：客観的な評価基準がない。
- ウ：時期・行動・測定指標が不明確である。
- エ：目標は患者の行動や臨床指標を用いて具体化し、次回評価時に達成度を比較できる形にする。

総合解説：目標は患者の行動や臨床指標を用いて具体化し、次回評価時に達成度を比較できる形にする。曖昧な表現を、期限・行動・測定可能な指標へ置き換える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0006 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：標準

歯科予防処置の実施段階で最も適切なのはどれか。

- ア．計画に沿って処置を行い、患者の疼痛・出血・反応を観察し、実施内容を記録する。
- イ．処置中の患者反応は観察しない
- ウ．計画と異なる処置へ根拠なく変更する
- エ．実施内容は記録しなくてよい

答え・解説 正答：ア

- ア：実施段階でも患者反応を観察し、必要に応じて計画を調整する。
- イ：安全な実施には継続的観察が必要である。
- ウ：変更には再評価と根拠が必要である。
- エ：継続ケアのため記録が必要である。

総合解説：実施段階でも患者反応を観察し、必要に応じて計画を調整する。実施と評価は完全に分離せず、処置中にも安全性と効果を確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0007 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：標準

歯周予防処置後の再評価で最も重要なのはどれか。

- ア．初診時の目標と現在の所見を比較し、継続・修正・終了する処置を判断する。
- イ．初診時のデータを見ず印象だけで判断する
- ウ．改善がなくても同じ計画を無条件に続ける
- エ．症状が軽減したら記録を破棄する

答え・解説 正答：ア

- ア：評価はアウトカムを測定し、次のケア計画を決める段階である。
- イ：経時比較には基準データが必要である。
- ウ：未達成要因を再評価して修正する。
- エ：継続ケアのため記録を保持する。

総合解説：評価はアウトカムを測定し、次のケア計画を決める段階である。再評価は歯科衛生過程を循環させる重要な節目である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0008 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：標準

同じ程度のブラーク付着がある2人の患者のうち、一方には重度の手指機能低下がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．両者へ同じ用具・同じ操作だけを強制する
- イ．手指機能が低い患者には予防処置を行わない
- ウ．同じ目標を共有しつつ、手指機能に応じて清掃用具や介助方法を個別化する。
- エ．セルフケア能力を評価せず専門的処置だけを行う

答え・解説 正答：ウ

- ア：実行可能性は患者ごとに異なる。
- イ：支援方法を調整して予防を継続する。
- ウ：予防処置では患者の機能、生活背景、価値観を踏まえて実行可能な計画を作る。
- エ：日常的なブラーク管理も重要である。

総合解説：予防処置では患者の機能、生活背景、価値観を踏まえて実行可能な計画を作る。同じ疾患でもケア方法は個別化される。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0009 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：応用

初回指導後もPCRが改善せず、患者は『歯間ブラシが痛くて使えない』と話した。最も適切なのはどれか。

- ア．患者の努力不足と決めつけ同じ指示だけを繰り返す
- イ．歯間清掃を永久に中止する
- ウ．患者の訴えを記録しない
- エ．痛みの原因やサイズ・操作法を再評価し、患者と相談して用具・方法・目標を修正する。

答え・解説 正答：エ

- ア：未達成要因の再評価が必要である。
- イ：代替用具や方法を検討できる。
- ウ：患者報告も重要な評価情報である。
- エ：目標未達時には原因を再アセスメントし、実行可能性を高めるよう計画を修正する。

総合解説：目標未達時には原因を再アセスメントし、実行可能性を高めるよう計画を修正する。評価結果から次のアセスメントへ戻る循環性が歯科衛生過程の特徴である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0010 総論・アセスメント > 予防処置の目的・歯科衛生過程 | 難易度：応用

歯周病予防における専門的予防処置とセルフケアの関係として最も適切なのはどれか。

- ア．専門的処置を受ければ家庭での清掃は不要である
- イ．専門的ケアで沈着物や残存プラークを管理しつつ、患者自身が日常的にプラークを除去できるよう支援する。
- ウ．セルフケアが良好なら歯周状態の再評価は不要である
- エ．専門的ケアとセルフケアは互いに無関係である

答え・解説 正答：イ

- ア：日常のセルフケアが歯周管理の中心である。
- イ：歯周病の予防・治療ではセルフケアとプロフェッショナルケアが相互補完する。
- ウ：定期的な評価は必要である。
- エ：両者を組み合わせて管理する。

総合解説：歯周病の予防・治療ではセルフケアとプロフェッショナルケアが相互補完する。患者が『磨いている』ではなく『磨けている』状態を支援する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0011 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：基礎

予防処置前に既往歴・服薬歴を確認する主な理由はどれか。

- ア．出血、感染、薬物相互作用、処置耐容性などのリスクを把握するため
- イ．口腔内所見とは無関係なので形式的に聞くだけ
- ウ．歯石の色を予測するためだけ
- エ．患者の私生活を必要以上に収集するため

答え・解説 正答：ア

- ア：全身疾患と服薬は出血や感染、治癒、口腔乾燥などに影響し得る。
- イ：安全な予防処置計画に直結する。
- ウ：既往歴確認の主目的ではない。
- エ：診療に必要な範囲で情報収集する。

総合解説：全身疾患と服薬は出血や感染、治癒、口腔乾燥などに影響し得る。口腔リスクと全身リスクを分けずに評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0012 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：基礎

歯周病予防処置のリスク評価で、特に進行リスクを高める組合せとして適切なのはどれか。

- ア．適切なブラッシングと禁煙
- イ．良好な血糖管理と定期管理
- ウ．喫煙とコントロール不良の糖尿病
- エ．適切な歯間清掃と禁煙

答え・解説 正答：ウ

- ア：リスク低下に寄与する方向である。
- イ：リスク管理に有利である。
- ウ：喫煙と糖尿病は歯周病の重要なリスク因子であり、予防処置計画にも反映する。
- エ：歯周病予防に有利である。

総合解説：喫煙と糖尿病は歯周病の重要なリスク因子であり、予防処置計画にも反映する。局所所見だけでなく全身・生活習慣因子を評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0013 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：基礎

う蝕リスク評価で確認すべき情報として最も適切なのはどれか。

- ア．既往う蝕、ブラーク、糖質摂取頻度、唾液、フッ化物利用など
- イ．年齢だけ
- ウ．歯の色だけ
- エ．性別だけ

答え・解説 正答：ア

- ア：う蝕予防では疾患経験、病原因子、防御因子、生活習慣を組み合わせで評価する。
- イ：う蝕は多因子性である。
- ウ：リスク全体を評価できない。
- エ：単独でう蝕リスクを決定しない。

総合解説：う蝕予防では疾患経験、病原因子、防御因子、生活習慣を組み合わせで評価する。 リスク評価は予防処置の内容と頻度の個別化に用いる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0014 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：標準

口腔乾燥が強い患者で特に高まりやすいリスクはどれか。

- ア．歯面の脱灰が必ず起こらなくなる
- イ．う蝕、粘膜障害、口腔内感染などのリスク
- ウ．ブラークが形成されなくなる
- エ．口腔粘膜が常に強くなる

答え・解説 正答：イ

- ア：唾液低下では防御作用が低下する。
- イ：唾液は洗浄、緩衝、再石灰化、粘膜保護に関与するため、分泌低下は複数の口腔リスクを高める。
- ウ：口腔乾燥でブラークが消失するわけではない。
- エ：乾燥により粘膜障害が生じやすい。

総合解説：唾液は洗浄、緩衝、再石灰化、粘膜保護に関与するため、分泌低下は複数の口腔リスクを高める。 薬剤性や全身疾患など乾燥の背景も確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0015 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：標準

ブラーク停滞を助長する局所因子として最も適切なのはどれか。

- ア．適合良好で清掃しやすい修復物
- イ．十分な歯間清掃
- ウ．不適合な修復物辺縁や歯石
- エ．滑沢で清潔な歯面

答え・解説 正答：ウ

- ア：ブラーク停滞を減らす方向である。
- イ：ブラーク除去に有効である。
- ウ：歯石、不適合修復物、歯列不正などはブラーク停滞因子となり得る。
- エ：停滞因子ではない。

総合解説：歯石、不適合修復物、歯列不正などはブラーク停滞因子となり得る。予防処置では患者の清掃技術だけでなく清掃しにくい環境も評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0016 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：標準

ブラーク性歯肉炎でみられやすい所見はどれか。

- ア．歯肉の骨化だけ
- イ．発赤、腫脹、易出血性
- ウ．歯根の長さが増加すること
- エ．エナメル質が新生すること

答え・解説 正答：イ

- ア：典型的炎症所見ではない。
- イ：歯肉炎では色調、形態、腫脹、出血などの炎症所見を観察する。
- ウ：歯肉炎による変化ではない。
- エ：炎症所見ではない。

総合解説：歯肉炎では色調、形態、腫脹、出血などの炎症所見を観察する。視診所見はBOPやブラーク所見と組み合わせで評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0017 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：標準

歯の動揺が増加している患者で評価すべき事項として最も適切なのはどれか。

- ア．歯の色だけ
- イ．舌苔の色だけ
- ウ．唾液pHだけ
- エ．歯周支持組織の喪失、炎症、咬合性外傷など

答え・解説 正答：エ

- ア：動揺の原因評価として不十分である。
- イ：動揺の主要原因を評価できない。
- ウ：歯の動揺の原因を直接評価する項目ではない。
- エ：歯の動揺は歯周支持の減少や炎症、咬合性外傷等で増加し得る。

総合解説：歯の動揺は歯周支持の減少や炎症、咬合性外傷等で増加し得る。単独所見で診断せず他の歯周検査と統合する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0018 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：標準

大白歯の根分岐部にプローブが進入する所見がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．多根歯では根分岐部の評価は不要である
- イ．歯肉の色だけで病変の深さを決める
- ウ．所見があれば全例ただちに抜歯する
- エ．根分岐部病変の程度を専用プローブや画像所見と合わせて評価する。

答え・解説 正答：エ

- ア：歯周病進行評価に重要である。
- イ：分岐部の水平的進展を評価する必要がある。
- ウ：病変程度や予後を総合評価する。
- エ：根分岐部病変は多根歯の歯周予後に関わるため、臨床・画像の両面から評価する。

総合解説：根分岐部病変は多根歯の歯周予後に関わるため、臨床・画像の両面から評価する。特殊な解剖部位では清掃性と器具到達性も重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0019 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：応用

喫煙、糖尿病、深い残存ポケットがある歯周治療後患者の予防管理として最も適切なものはどれか。

- ア．リスクと再評価所見に応じて、低リスク患者より密な管理間隔を検討する。
- イ．全患者を同じ固定間隔で管理する
- ウ．高リスクほど来院間隔を長くする
- エ．治療終了後は歯周検査を行わない

答え・解説 正答：ア

ア：歯周病は再発・進行し得るため、全身・局所リスクとセルフケア状況に応じた継続管理が必要である。
イ：リスクに応じた個別化が必要である。
ウ：再発監視の観点から不適切である。
エ：継続的再評価が必要である。

総合解説：歯周病は再発・進行し得るため、全身・局所リスクとセルフケア状況に応じた継続管理が必要である。メインテナンス間隔は一律ではない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0020 総論・アセスメント > 口腔内診査・リスク評価 | 難易度：応用

多量ブラーク、喫煙、口腔乾燥、頻回の甘味飲料摂取がある患者の予防計画として最も適切なものはどれか。

- ア．歯石除去だけ行い生活習慣は評価しない
- イ．う蝕だけを見て歯周リスクを無視する
- ウ．全ての課題を一度に説明し患者の実行可能性を考えない
- エ．歯周病・う蝕双方のリスクを整理し、ブラーク管理、禁煙支援、乾燥対策、食習慣改善を優先度を付けて組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

ア：複数リスクへの介入が必要である。
イ：双方のリスクが高い。
ウ：優先順位と段階的支援が重要である。
エ：リスク評価は疾病ごとの要因を列挙するだけでなく、患者が実行できる予防計画へ変換する。

総合解説：リスク評価は疾病ごとの要因を列挙するだけでなく、患者が実行できる予防計画へ変換する。高リスク患者ほど多面的・継続的な介入が必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0021 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：基礎

ブローピングデプス（PPD）が示す距離はどれか。

- ア．CEJから根尖までの距離
- イ．歯肉辺縁から歯周ポケット底までの距離
- ウ．歯冠の近遠心幅径
- エ．歯槽骨頂から咬合面までの距離

答え・解説 正答：イ

- ア：PPDの定義ではない。
- イ：PPDは歯肉辺縁からポケット底までをブロープで測定する。
- ウ：歯周ポケット深さではない。
- エ：PPDとは異なる。

総合解説：PPDは歯肉辺縁からポケット底までをブロープで測定する。歯肉腫脹や退縮の影響を受けるためCALと区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0022 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：基礎

歯肉辺縁がCEJより2mm根尖側にあり、PPDが3mmであった。この部位のCALはどれか。

- ア．1mm（退縮量2mmからPPD3mmを減じると考えた値）
- イ．2mm（歯肉退縮量だけをCALとした値）
- ウ．5mm（退縮量2mmとPPD3mmを加えた値）
- エ．3mm（PPDだけをCALとした値）

答え・解説 正答：ウ

- ア：退縮量2mmからPPD3mmを減じる計算ではない。
- イ：歯肉退縮量だけをCALとした値である。
- ウ：歯肉退縮部では、CEJから歯肉辺縁までの2mmと、歯肉辺縁からポケット底までのPPD3mmを加えるためCALは5mmとなる。
- エ：PPDだけをCALとした値である。

総合解説：歯肉退縮部では、CEJから歯肉辺縁までの2mmと、歯肉辺縁からポケット底までのPPD3mmを加えるためCALは5mmとなる。CALは固定基準点であるCEJからポケット底までの距離として考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0023 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：基礎

ブローピング時出血（BOP）が主に示すものはどれか。

- ア．歯の色調
- イ．歯肉・歯周組織の炎症活動性
- ウ．咬合力そのもの
- エ．歯髓生活反応

答え・解説 正答：イ

- ア：BOPでは評価しない。
- イ：BOPは現在の炎症を示す代表的な臨床指標の一つである。
- ウ：BOPは炎症指標である。
- エ：歯髓検査ではない。

総合解説：BOPは現在の炎症を示す代表的な臨床指標の一つである。BOPだけで病期を決めず、PPD・CAL・骨吸収などと統合する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0024 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：標準

O'LearyのPlaque Control Record（PCR）では1歯をどのように区分して評価するか。

- ア．咬頭ごとの8面
- イ．歯根ごとの2面のみ
- ウ．唇・頬側、舌・口蓋側、近心、遠心の4面
- エ．歯列全体を1面として評価する

答え・解説 正答：ウ

- ア：PCRの標準的区分ではない。
- イ：PCRは歯頸部の4面を評価する。
- ウ：O'Leary PCRは1歯4面の歯肉辺縁部でブラーク付着の有無を記録し、付着面割合を百分率で算出する。
- エ：部位別のブラーク付着を記録できない。

総合解説：O'Leary PCRは1歯4面の歯肉辺縁部でブラーク付着の有無を記録し、付着面割合を百分率で算出する。欠損歯は被検歯面数から除外する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0025 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：標準

被検歯面が100面で、そのうちブラーク付着面が25面であった。PCRはどれか。

- ア．4％（付着面25面と被検面100面の関係を誤って算出した値）
- イ．25％（ $25 \div 100 \times 100$ で求めた値）
- ウ．40％（付着面割合を誤って算出した値）
- エ．75％（非付着面の割合）

答え・解説 正答：イ

ア： $25 \div 100 \times 100$ の計算ではない。
イ：PCRはブラーク付着面数÷被検歯面数×100で求める。 $25 \div 100 \times 100 = 25\%$ である。
ウ：付着面数の割合と一致しない。
エ：これは非付着面の割合に相当する。

総合解説：PCRはブラーク付着面数÷被検歯面数×100で求める。 $25 \div 100 \times 100 = 25\%$ である。低下傾向を患者と共有し、セルフケア評価に活用する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0026 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：標準

歯肉退縮がある部位でPPDが浅くてもCALが大きくなる理由として正しいのはどれか。

- ア．歯肉退縮があるとCEJが消失するから
- イ．PPDとCALは常に同じ値だから
- ウ．退縮すると付着喪失が必ずゼロになるから
- エ．歯肉辺縁が根尖側へ移動しているため、CEJからポケット底までの距離が大きくなるから

答え・解説 正答：エ

ア：CEJは解剖学的基準点として存在する。
イ：歯肉辺縁位置により異なる。
ウ：むしろ付着喪失を反映する場合がある。
エ：PPDが浅いだけでは過去の付着喪失を評価できない。退縮部ではCALを併せて確認する。

総合解説：PPDが浅いだけでは過去の付着喪失を評価できない。退縮部ではCALを併せて確認する。PPD・歯肉辺縁位置・CALを一体で理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0027 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：標準

1歯6点法でPPDやCALを測定する主な利点はどれか。

- ア．近遠心・頬舌側の局所的な深いポケットを見逃しにくくする。
- イ．歯の色を6段階で評価できる
- ウ．歯髄生活性を6回測定する
- エ．全歯を1点だけ測るより局所差を消す

答え・解説 正答：ア

- ア：歯周病は同一歯でも部位により進行度が異なるため、標準的に複数点を測定する。
- イ：歯周計測の目的ではない。
- ウ：歯周プロービングとは異なる。
- エ：逆に局所差を把握しやすくする。

総合解説：歯周病は同一歯でも部位により進行度が異なるため、標準的に複数点を測定する。最深部位だけでなく分布を把握する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0028 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：標準

患者は『毎日3回しっかり磨いている』と言うがPCRが高い。最も有効な対応はどれか。

- ア．回数だけ十分なので指導は不要とする
- イ．染色で付着部位を可視化し、磨き残しの部位と現在の清掃法と一緒に確認する。
- ウ．患者の申告を否定するだけで具体策を示さない
- エ．歯石除去だけで日常清掃の評価を行わない

答え・解説 正答：イ

- ア：清掃回数と除去結果は同じではない。
- イ：ブラーク染色とPCRは『磨いている』と『磨けている』の差を具体的に示せる。
- ウ：可視化と実技支援が有用である。
- エ：セルフブラークコントロールが重要である。

総合解説：ブラーク染色とPCRは『磨いている』と『磨けている』の差を具体的に示せる。数値と部位を患者ヘフィードバックして行動改善に用いる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0029 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：応用

PPD 5mmでBOP陽性の部位が複数残存している。最も適切な解釈はどれか。

- ア．PPDが4mmを超えていてもBOPは無意味である
- イ．炎症を伴う残存ポケットとして、ブラークや歯石、セルフケア、治療反応を再評価する。
- ウ．BOP陽性なら必ず抜歯する
- エ．PPDとBOPは互いに無関係なので別々に無視する

答え・解説 正答：イ

- ア：BOPは炎症評価に重要である。
- イ：残存ポケットに出血がある場合、炎症が持続している可能性を考え、原因除去とセルフケアを再評価する。
- ウ：単一所見だけで抜歯適応は決まらない。
- エ：両者を統合して評価する。

総合解説：残存ポケットに出血がある場合、炎症が持続している可能性を考え、原因除去とセルフケアを再評価する。歯周検査は複数の指標を組み合わせで解釈する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0030 総論・アセスメント > 歯周組織検査・ブラーク評価 | 難易度：応用

PCR 60%、BOP多数、複数の4～5mmポケットがあるが、深い歯石はまだ十分評価できていない。最初の予防処置計画として最も適切なのはどれか。

- ア．検査結果を無視して全歯を強く研磨する
- イ．ブラークコントロールを行わずSRPだけを繰り返す
- ウ．歯周状態が不明でも全例同じ処置量にする
- エ．口腔清掃指導と詳細な歯周・沈着物評価を行い、必要部位のスクーリング等を段階的に計画する。

答え・解説 正答：エ

- ア：炎症と歯石に応じた処置が必要である。
- イ：日常の原因除去も重要である。
- ウ：検査に基づく個別計画が必要である。
- エ：予防処置は検査結果から優先課題を整理し、セルフケア支援と専門的デブライドメントを組み合わせる。

総合解説：予防処置は検査結果から優先課題を整理し、セルフケア支援と専門的デブライドメントを組み合わせる。アセスメント→計画→実施→再評価の流れを崩さない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0031 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：基礎

歯周用手用器具の基本的な構成として最も適切なのはどれか。

- ア．ハンドル、歯冠、歯根
- イ．ハンドル、シャンク、ワーキングエンド
- ウ．プローブ、ミラー、ピンセット
- エ．モーター、ローター、タービンだけ

答え・解説 正答：イ

- ア：歯の構造と混同している。
- イ：手用歯周器具は把持するハンドル、力を伝えるシャンク、歯面へ作用するワーキングエンドで構成される。
- ウ：器具セットの名称であり単一器具の構造ではない。
- エ：手用スケーラーの構造ではない。

総合解説：手用歯周器具は把持するハンドル、力を伝えるシャンク、歯面へ作用するワーキングエンドで構成される。器具選択ではワーキングエンド形態とシャンクの屈曲を確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0032 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：基礎

シックルスケーラーの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．先端が丸く、深い歯周ポケットの根面に最も適する。
- イ．刃部を持たず計測専用である。
- ウ．必ず歯周ポケット底まで深く挿入して使用する。
- エ．先端が尖り、主に歯肉縁上の歯石除去に用いられる。

答え・解説 正答：エ

- ア：これはキュレットの特徴に近い。
- イ：スケーラーは切縁をもつ除去器具である。
- ウ：尖った先端は深い縁下操作で軟組織損傷を起こしやすい。
- エ：シックルスケーラーは強いワーキングエンドと尖った先端をもち、特に歯肉縁上歯石除去に有用である。

総合解説：シックルスケーラーは強いワーキングエンドと尖った先端をもち、特に歯肉縁上歯石除去に有用である。器具形態から安全な適応範囲を判断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0033 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：基礎

キュレットの特徴として正しいのはどれか。

- ア．先端が鋭く尖っていることが必須である。
- イ．丸イトウと丸みのあるバックをもち、歯肉縁下の操作に適する。
- ウ．歯周プローブのように目盛りだけがある。
- エ．歯肉縁下では使用できない。

答え・解説 正答：イ

- ア：キュレットは丸イトウをもつ。
- イ：キュレットは丸イトウと背部により軟組織への外傷を抑えながら根面へ適合しやすい。
- ウ：切縁を有するデブライドメント器具である。
- エ：縁下スケーリングやSRPに用いられる。

総合解説：キュレットは丸イトウと背部により軟組織への外傷を抑えながら根面へ適合しやすい。シックルとキュレットの先端形態を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0034 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：基礎

ユニバーサルキュレットの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．刃面が下部シャンクに対して約70度にオフセットされ、片側切縁のみを使用する。
- イ．切縁がなく計測だけに用いる。
- ウ．前歯部にしか使用できない。
- エ．刃面と下部シャンクがおおむね90度で、両側の切縁を各歯面に応じて使用できる。

答え・解説 正答：エ

- ア：これはGraceyキュレットの特徴である。
- イ：キュレットは切縁を有する。
- ウ：ユニバーサルキュレットは多くの歯面へ適応できる。
- エ：ユニバーサルキュレットは左右両方の切縁を使用し、ハンドルとシャンク位置を調整して各歯面へ適合させる。

総合解説：ユニバーサルキュレットは左右両方の切縁を使用し、ハンドルとシャンク位置を調整して各歯面へ適合させる。Graceyとの刃面角度・使用切縁の違いを押さえる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0035 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：標準

Graceyキュレットについて正しいのはどれか。

- ア．すべての歯面で上下両方の切縁を同時に使う。
- イ．刃部は完全に直線で歯根の曲面へ適合しない。
- ウ．部位特異的に設計され、下部シャンクを適切に合わせると下側の切縁が作業用切縁となる。
- エ．歯肉縁下には使用しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：Graceyは基本的に片側の作業用切縁を使用する。
- イ：根面へ適合しやすいよう湾曲している。
- ウ：Graceyは部位特異的なキュレットで、刃面のオフセットにより特定歯面へ適合させやすい。
- エ：縁下スケーリング・SRPの代表的器具である。

総合解説：Graceyは部位特異的なキュレットで、刃面のオフセットにより特定歯面へ適合させやすい。正しい作業用切縁を選ぶことが安全で効率的な操作につながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0036 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：標準

臼歯部の近心面をSRPする際、代表的に選択されるGraceyキュレットはどれか。

- ア．Gracey 11/12
- イ．Gracey 13/14
- ウ．前歯用シックルだけ
- エ．歯周プローブ

答え・解説 正答：ア

- ア：Gracey 11/12は後方歯の近心面、13/14は遠心面への適応が代表的である。
- イ：代表的には臼歯部遠心面に用いる。
- ウ：近心根面の縁下操作には部位適合性が低い。
- エ：計測器具でありSRP用切削器具ではない。

総合解説：Gracey 11/12は後方歯の近心面、13/14は遠心面への適応が代表的である。部位と器具番号を対応させる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0037 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：標準

臼歯部の遠心面に深い歯石がある。代表的に選択されるGraceyキュレットはどれか。

- ア．Gracey 13/14
- イ．Gracey 11/12
- ウ．Gracey 7/8だけ
- エ．Explorerだけ

答え・解説 正答：ア

ア：Gracey 13/14は後方歯遠心面へ適合するよう設計されている。
イ：主に後方歯近心面に使用する。
ウ：主に後方歯の頬舌面に用いられる。
エ：探知用であり歯石除去はできない。

総合解説：Gracey 13/14は後方歯遠心面へ適合するよう設計されている。深い遠心ポケットでは長い下部シャンクの派生型も選択肢となる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0038 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：標準

臼歯の頬側・舌側面へのGraceyキュレットの代表的な選択はどれか。

- ア．Gracey 11/12のみ
- イ．Gracey 7/8または9/10
- ウ．Gracey 13/14のみ
- エ．歯周プローブのみ

答え・解説 正答：イ

ア：11/12は主に後方歯近心面用である。
イ：後方歯頬舌面には7/8や9/10が代表的で、近心11/12、遠心13/14と使い分ける。
ウ：13/14は主に後方歯遠心面用である。
エ：計測器具であり歯石除去用ではない。

総合解説：後方歯頬舌面には7/8や9/10が代表的で、近心11/12、遠心13/14と使い分ける。歯面ごとのシャンク適合を確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0039 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：標準

歯周インスツルメンテーションで修正ペングラスプを用いる主な利点はどれか。

- ア．器具を安定させつつ、指先の触覚を利用して細かな操作を行いやすい。
- イ．器具を強く握り込んで触覚を消すため
- ウ．支点を不要にするため
- エ．器具を歯面から離して操作するため

答え・解説 正答：ア

- ア：修正ペングラスプと安定した支点は、精密な適合・ストローク・触知に役立つ。
- イ：過度な把持圧は触覚や操作性を低下させる。
- ウ：安定した支点も重要である。
- エ：歯面へ適合させて用いる。

総合解説：修正ペングラスプと安定した支点は、精密な適合・ストローク・触知に役立つ。強すぎる把持は疲労と感覚低下につながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0040 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：標準

手用器具操作で安定したフィンガーレストを確保する主な目的はどれか。

- ア．器具を滑りやすくするため
- イ．歯面への適合を不要にするため
- ウ．器具のコントロールを高め、過剰な動きや軟組織損傷を防ぐ。
- エ．刃を鈍くするため

答え・解説 正答：ウ

- ア：安定性を高めるのが目的である。
- イ：適合は別に必要である。
- ウ：適切な支点は術者の手を安定させ、力の方向とストローク幅を制御する。
- エ：支点は刃の鋭さとは無関係である。

総合解説：適切な支点は術者の手を安定させ、力の方向とストローク幅を制御する。安全なスケーリングには把持・支点・適合の三者が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0041 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：応用

Graceyキュレットで根面の曲面を操作している。最も適切な適合法はどれか。

- ア．刃部全長を平面のまま押し付ける
- イ．トウを歯面から浮かせて切縁だけを突き刺す
- ウ．刃部先端側の約1/3を歯面に密着させ、ラインアングルではハンドルをロールして追従する。
- エ．根面形態に関係なく手首を固定し続ける

答え・解説 正答：ウ

- ア：曲面では先端側を適合させる方が組織損傷を抑えやすい。
- イ：軟組織損傷の危険がある。
- ウ：根面への適合ではワーキングエンドの先端側を密着させ、曲面に合わせて器具をロールする。
- エ：曲面に沿うロール操作が必要である。

総合解説：根面への適合ではワーキングエンドの先端側を密着させ、曲面に合わせて器具をロールする。適合不良は歯石取り残しや組織外傷につながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0042 歯周病予防処置 > 手用器具 | 難易度：応用

標準Graceyでは到達しにくい深い歯周ポケットへアクセスしたい。選択肢として最も適切なのはどれか。

- ア．深いほどシャンクの短い器具だけを選ぶ
- イ．先端が鋭いシックルをポケット底へ強く押し込む
- ウ．下部シャンクが延長されたAfter Fiveや小型ブレードのMini Fiveなどを検討する。
- エ．器具を選ばず同じ形態だけで全根面を操作する

答え・解説 正答：ウ

- ア：到達性が低下する。
- イ：軟組織損傷の危険がある。
- ウ：After Fiveは下部シャンクを延長し、Mini Fiveはさらに小型のワーキングエンドで深部や狭い根面へのアクセスを高める。
- エ：解剖・ポケット深さに応じた選択が必要である。

総合解説：After Fiveは下部シャンクを延長し、Mini Fiveはさらに小型のワーキングエンドで深部や狭い根面へのアクセスを高める。器具選択は歯石量だけでなくポケット深さと根面解剖も考慮する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0043 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：基礎

スケーリングの説明として最も適切なのはどれか。

- ア．歯面に付着した歯肉縁上・縁下のプラーク、歯石、その他の沈着物を機械的に除去する処置
- イ．歯髄を除去して根管を充填する処置
- ウ．歯を移動して咬合を改善する処置
- エ．補綴物を製作する処置

答え・解説 正答：ア

- ア：日本歯周病学会はスケーリングを歯面付着物・沈着物の機械的除去としている。
- イ：歯内療法である。
- ウ：矯正治療である。
- エ：補綴治療である。

総合解説：日本歯周病学会はスケーリングを歯面付着物・沈着物の機械的除去としている。縁上・縁下の双方が対象になり得る。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0044 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：基礎

歯周治療で歯石を除去する主な理由はどれか。

- ア．歯石自体が生きた腫瘍だから
- イ．歯石を残すほど歯肉炎が治癒するから
- ウ．歯石除去で永久にプラークが形成されなくなるから
- エ．粗造な歯石表面がプラーク停滞因子となるため、清掃しやすい環境をつくる。

答え・解説 正答：エ

- ア：歯石は石灰化したプラーク由来沈着物である。
- イ：プラーク停滞を助長する。
- ウ：プラークは再形成するためセルフケアが必要である。
- エ：歯石は表面が粗造でプラークが付着しやすく、局所のプラークリテンションファクターとなる。

総合解説：歯石は表面が粗造でプラークが付着しやすく、局所のプラークリテンションファクターとなる。除石後も日常的プラークコントロールが必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0045 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：基礎

前歯部の厚い歯肉縁上歯石を手用器具で除去する際に適した器具はどれか。

- ア．歯周プローブ
- イ．歯科用ミラーだけ
- ウ．ラバーダムクランプ
- エ．前歯用シックルスケーラー

答え・解説 正答：エ

ア：計測用である。
イ：視野確保で歯石除去はできない。
ウ：防湿器具である。
エ：シックルスケーラーは先端が尖り、歯肉縁上の比較的大きな歯石除去に適する。

総合解説：シックルスケーラーは先端が尖り、歯肉縁上の比較的大きな歯石除去に適する。沈着物の部位・量・硬さに応じて器具を選択する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0046 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：標準

歯肉縁下歯石の探知で最も適切なのはどれか。

- ア．強い切削圧で探知器具を根面に押し付ける
- イ．歯石は視診だけで全て確認できるとする
- ウ．エキスプローラー等を軽い圧で根面へ適合させ、粗造感や隆起を触知する。
- エ．除去後の再探知を行わない

答え・解説 正答：ウ

ア：探知では軽い圧と触覚が重要である。
イ：縁下では触知が必要な場合が多い。
ウ：縁下歯石は視認困難なため、触覚による探知と除去後の再評価が重要である。
エ：取り残し確認に再評価が必要である。

総合解説：縁下歯石は視認困難なため、触覚による探知と除去後の再評価が重要である。探知ストロークと除去ストロークでは側方圧が異なる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0047 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：標準

歯石除去時の手用スケーリングストロークとして最も適切なのはどれか。

- ア．器具を歯面から浮かせたまま長く振り回す
- イ．歯面へ刃を適合させ、適切な側方圧を加えた短いブルストロークで沈着物を破碎・除去する。
- ウ．刃をポケット上皮へ向けて突き刺す
- エ．支点を取らず最大力だけで操作する

答え・解説 正答：イ

- ア：歯面へ適合しないため安全・効率が悪い。
- イ：スケーリングでは安定した支点、適合、適切な作業角度と側方圧を組み合わせる。
- ウ：軟組織損傷の危険がある。
- エ：コントロールを失いやすい。

総合解説：スケーリングでは安定した支点、適合、適切な作業角度と側方圧を組み合わせる。大きな歯石では短く力強いストローク、仕上げでは軽いストロークを使い分ける。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0048 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：標準

深い縁下歯石の除去で患者が強い疼痛を訴えている。最も適切な対応はどれか。

- ア．処置をいったん調整し、疼痛の原因を確認して必要に応じ局所麻酔等を検討する。
- イ．痛みを無視して力を強める
- ウ．患者が痛いと言えば歯周治療を永久に中止する
- エ．痛みは歯石除去と無関係なので記録しない

答え・解説 正答：ア

- ア：深いポケットのSRP・スケーリングは疼痛を伴うことがあり、適切な疼痛管理を行う。
- イ：安全で患者中心の対応ではない。
- ウ：疼痛管理を行い必要な治療を継続できる。
- エ：患者反応は重要な記録事項である。

総合解説：深いポケットのSRP・スケーリングは疼痛を伴うことがあり、適切な疼痛管理を行う。処置効率より患者安全と快適性を優先する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0049 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：標準

抗凝固薬を服用している患者の縁下スケーリング前に最も適切なのはどれか。

- ア．患者へその場で勝手に抗凝固薬中止を指示する
- イ．服薬内容、出血歴、処置侵襲を確認し、自己判断で休薬させず必要時に歯科医師・主治医と連携する。
- ウ．服薬歴は歯周処置と無関係として確認しない
- エ．出血があれば必ず処置不能と決める

答え・解説 正答：イ

- ア：血栓リスクがあり不適切である。
- イ：スケーリング・SRPは出血を伴い得るため、全身既往・薬剤・止血リスクを事前に確認する。
- ウ：出血管理に関係する。
- エ：全身状態と処置内容を総合評価する。

総合解説：スケーリング・SRPは出血を伴い得るため、全身既往・薬剤・止血リスクを事前に確認する。休薬判断は患者が自己判断で行うものではない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0050 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：標準

スケーリング終了直後に行う確認として最も適切なのはどれか。

- ア．器具を置いた時点で評価せず終了する
- イ．根面を再探知し、残存歯石や粗造部、軟組織損傷、止血状態を確認する。
- ウ．プラークコントロール状況は今後一切見ない
- エ．歯面が出血していれば全て歯石が残っていると判断する

答え・解説 正答：イ

- ア：取り残しや安全性の確認が必要である。
- イ：機械的処置後は触知・視診で処置結果と組織状態を確認する。
- ウ：再発予防に重要である。
- エ：出血は炎症・操作など複数要因で起こる。

総合解説：機械的処置後は触知・視診で処置結果と組織状態を確認する。長期効果は後日の歯周再評価で判断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0051 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：応用

歯石が除去された根面に対して強いストロークを繰り返し続けることが望ましくない理由はどれか。

- ア．必要以上のセメント質・象牙質損失や知覚過敏、根面損傷を招き得るため
- イ．根面は無限に再生するため
- ウ．強く削るほど歯周治癒が必ず良くなるため
- エ．歯石除去後は器具が歯質に接触しないため

答え・解説 正答：ア

- ア：近年の知見では、歯周治療の目標として過度にセメント質を除去することは推奨されない。
- イ：過剰切削は歯質損失となる。
- ウ：過度なセメント質除去は現在の治療目標ではない。
- エ：器具は根面歯質へ作用する。

総合解説：近年の知見では、歯周治療の目標として過度にセメント質を除去することは推奨されない。必要な沈着物除去と歯質保存のバランスが重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0052 歯周病予防処置 > スケーリング | 難易度：応用

PCRが非常に高く、毎日新しいプラークが多量に付着している患者への歯周基本治療として最も適切なのはどれか。

- ア．スケーリングと並行してセルフプラークコントロールを改善し、処置後の再付着を減らす。
- イ．専門的除石だけ行えば家庭での清掃は不要と説明する
- ウ．プラークが多いほど歯石除去後の再評価を行わない
- エ．患者の行動変容は歯周治療に影響しないと説明する

答え・解説 正答：ア

- ア：歯石除去だけでは新しいプラークの再付着を防げないため、セルフケア改善を同時に進める。
- イ：日常のプラーク管理が治療の中心である。
- ウ：治療反応を再評価する必要がある。
- エ：セルフケアは歯周治療成功に重要である。

総合解説：歯石除去だけでは新しいプラークの再付着を防げないため、セルフケア改善を同時に進める。歯周基本治療は患者と術者の共同作業である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0053 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：基礎

スケーリング・ルートプレーニング（SRP）の主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア．根面セメント質を必ず完全に除去する
- イ．歯肉縁下のプラーク・歯石などの感染性沈着物を除去し、根面を生体に適合しやすい状態へ整える。
- ウ．歯髄を除去して根管充填する
- エ．すべての歯周ポケットを外科的に切除する

答え・解説 正答：イ

- ア：過度なセメント質除去は現在の目標ではない。
- イ：SRPは歯肉縁下の細菌性バイオフィルムと歯石を機械的に減少させ、炎症改善を図る。
- ウ：歯内療法である。
- エ：SRPは非外科的歯周治療である。

総合解説：SRPは歯肉縁下の細菌性バイオフィルムと歯石を機械的に減少させ、炎症改善を図る。『滑沢にするために削り続ける』のではなく、感染源除去を中心に考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0054 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：基礎

スケーリングとルートプレーニングの違いとして最も適切なのはどれか。

- ア．両者は歯を抜去する処置である
- イ．スケーリングは沈着物除去が中心で、ルートプレーニングは病的根面を生体適合性の高い状態へ整える操作を含む。
- ウ．ルートプレーニングは歯冠表面だけを研磨する
- エ．スケーリングでは歯石を残す

答え・解説 正答：イ

- ア：非外科的歯周処置である。
- イ：古典的にはルートプレーニングを病的セメント質除去・根面滑沢化として説明するが、現在は過剰切削を避ける。
- ウ：根面に対して行う。
- エ：歯石除去が主要目的である。

総合解説：古典的にはルートプレーニングを病的セメント質除去・根面滑沢化として説明するが、現在は過剰切削を避ける。用語の違いを理解しつつ、現代的にはデブライドメントを重視する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0055 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：標準

付着喪失がなく、病変が歯肉に限局したブラーク性歯肉炎について最も適切なのはどれか。

- ア．全例で深いSRPを必ず行う
- イ．ブラークコントロールと必要なスケーリングが中心で、根面病変がなければルートプレーニングは通常不要である。
- ウ．歯肉炎ではブラーク除去は不要である
- エ．歯肉炎は必ず抜歯で治療する

答え・解説 正答：イ

- ア：根面病変がない歯肉炎では過剰処置になる。
- イ：日本歯周病学会の指針では、歯肉炎では病変が歯根面まで及ばないためルートプレーニングは不要としている。
- ウ：原因ブラークの除去が重要である。
- エ：保存的な原因除去が基本である。

総合解説：日本歯周病学会の指針では、歯肉炎では病変が歯根面まで及ばないためルートプレーニングは不要としている。疾患の深さに応じて処置侵襲を選ぶ。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0056 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：標準

深い歯周ポケットでSRPが難しくなる主な理由はどれか。

- ア．視野が制限され、根面形態や歯石を触覚で判断しながら器具を深部へ適合させる必要があるため
- イ．深いほど根面が完全な平面になるため
- ウ．深いポケットでは歯石が存在しないため
- エ．器具の適合が不要になるため

答え・解説 正答：ア

- ア：ポケットが深くなるほど視認性・到達性が低下し、解剖学的凹凸へのアクセスが難しくなる。
- イ：根面には凹凸や分岐部がある。
- ウ：縁下歯石が存在し得る。
- エ：むしろ深部ほど適合が重要である。

総合解説：ポケットが深くなるほど視認性・到達性が低下し、解剖学的凹凸へのアクセスが難しくなる。適切な器具選択と術者技術が必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0057 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：標準

現在のSRPで望ましい根面処置の考え方はどれか。

- ア．歯石・バイオフィルム等を十分除去しつつ、健康なセメント質を必要以上に削らない。
- イ．根面が白くなるまで全セメント質を削除する
- ウ．歯石を残してセメント質だけ削る
- エ．粗造感がなくなるまで無制限にストロークする

答え・解説 正答：ア

- ア：AAPのポジションペーパー等では完全なセメント質除去を歯周治療の目標としない。
- イ：過剰な歯質除去となる。
- ウ：感染性沈着物除去が目的である。
- エ：必要以上の器具操作は避ける。

総合解説：AAPのポジションペーパー等では完全なセメント質除去を歯周治療の目標としない。歯質保存を意識したデブライドメントが重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0058 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：標準

SRP後に冷水で根面がしみると訴えた。考えられる理由として最も適切なのはどれか。

- ア．SRPで必ず歯髄壊死が起こるから
- イ．歯が新たに萌出したから
- ウ．歯石や炎症の改善に伴って根面が露出し、象牙質知覚過敏が生じた可能性がある。
- エ．知覚過敏はSRP後には絶対に起こらない

答え・解説 正答：ウ

- ア：通常そのような必然的経過ではない。
- イ：成人歯周治療後の典型的機序ではない。
- ウ：歯肉退縮や根面露出により術後知覚過敏が生じることがある。
- エ：一時的に生じることがある。

総合解説：歯肉退縮や根面露出により術後知覚過敏が生じることがある。症状の程度と持続期間を確認し、必要に応じて知覚過敏対策を行う。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0059 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：応用

SRP後の再評価でPPDが減少しBOPも消失した。最も適切な判断はどれか。

- ア．治療反応が得られていると評価し、セルフケアと継続管理へつなげる。
- イ．改善していても同じ部位を毎回強く削り続ける
- ウ．BOP消失は炎症改善と無関係とする
- エ．良好な反応なら以後の管理は一切不要とする

答え・解説 正答：ア

- ア：SRPの効果はPPD、BOP、CAL、ブランク状況などで再評価する。
- イ：過剰インストルメンテーションになる。
- ウ：BOPは炎症評価に用いる。
- エ：再発予防の継続管理が必要である。

総合解説：SRPの効果はPPD、BOP、CAL、ブランク状況などで再評価する。改善部位を無用に再処置せず維持管理へ移行する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0060 歯周病予防処置 > SRP | 難易度：応用

広範囲の縁下歯石があり、根面には複雑な形態もある。効率と精度を両立する方法として最も適切なのはどれか。

- ア．常にどちらか一方だけを全症例で使用する
- イ．超音波器具は歯石除去に使用できない
- ウ．超音波器具で広範囲のデブライドメントを行い、必要部位を手用キュレットで仕上げるなど症例に応じて併用する。
- エ．手用器具は縁下には使用できない

答え・解説 正答：ウ

- ア：症例・部位に応じて使い分けられる。
- イ：歯周デブライドメントに用いられる。
- ウ：手用と超音波はどちらも歯周デブライドメントに有効で、一律の優劣ではなく適応・アクセス・術者技術で選択する。

エ：キュレットは縁下に適する。

総合解説：手用と超音波はどちらも歯周デブライドメントに有効で、一律の優劣ではなく適応・アクセス・術者技術で選択する。複数器具の長所を組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0061 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：基礎

超音波スケーラーが歯石を除去する主な機序として最も適切なのはどれか。

- ア．薬液だけで歯石を完全に溶解する。
- イ．歯面を加熱して歯石を焼却する。
- ウ．高周波で振動するチップを歯石へ作用させ、沈着物を破砕・除去する。
- エ．吸引圧だけで歯石を除去する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：主作用はチップの機械的振動である。
- イ：熱傷を起こすような使用は不適切である。
- ウ：超音波スケーラーはチップの高速振動でブラーク・歯石を機械的に除去する。
- エ：吸引は水・エアロゾル管理に用いる。

総合解説：超音波スケーラーはチップの高速振動でブラーク・歯石を機械的に除去する。注水には冷却と洗浄の役割もある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0062 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：基礎

エアスケーラー（ソニックスケーラー）の説明として正しいのはどれか。

- ア．電氣的な超音波発生器だけで作動する。
- イ．手用器具であり動力を用いない。
- ウ．圧縮空気でチップを音波領域に振動させて沈着物を除去する。
- エ．歯周ポケット深さを測定する専用器具である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：超音波スケーラーの作動方式と異なる。
- イ：パワードリブンスケーラーである。
- ウ：ソニックスケーラーは圧縮空気を利用する低周波のパワードリブン器具である。
- エ：歯石・バイオフィルム除去に用いる。

総合解説：ソニックスケーラーは圧縮空気を利用する低周波のパワードリブン器具である。超音波スケーラーとは振動発生機構が異なる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0063 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：基礎

超音波スケーラーで注水が必要な主な理由はどれか。

- ア．歯石を歯面へ再付着させるため
- イ．根面を乾燥させるため
- ウ．患者の体温を下げるためだけ
- エ．チップと歯面を冷却し、洗浄流によってデブリ除去を助けるため

答え・解説 正答：エ

- ア：処置目的と逆である。
- イ：注水は乾燥目的ではない。
- ウ：局所の冷却・洗浄が主目的である。
- エ：超音波器具は発熱するため十分な注水で冷却し、同時に洗浄・デブリ排出を助ける。

総合解説：超音波器具は発熱するため十分な注水で冷却し、同時に洗浄・デブリ排出を助ける。水量不足のまま長時間同一点へ当て続けない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0064 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：標準

超音波スケーラーのチップ操作として最も適切なのはどれか。

- ア．先端を歯面へ垂直に強く押し当て続ける。
- イ．同一点へ強圧で静止させる。
- ウ．歯面から離れたまま水だけ噴射する。
- エ．チップの側面を歯面に軽く適合させ、短い連続ストロークで動かす。

答え・解説 正答：エ

- ア：歯面損傷や疼痛の原因となり得る。
- イ：熱や歯質損傷のリスクが高まる。
- ウ：沈着物へ機械的作用が伝わらない。
- エ：パワードリブン器具では軽い側方圧と連続した移動でチップを適合させる。

総合解説：パワードリブン器具では軽い側方圧と連続した移動でチップを適合させる。強圧より適切なパワー・チップ・ストロークの組合せが重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0065 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：標準

薄いバイオフィルムと軽度沈着物の部位に対する超音波スケーラー設定として最も適切なものはどれか。

- ア．常に最大出力と太いチップを使用する。
- イ．チップの適応範囲を確認しない。
- ウ．適応する細いチップと必要最小限の出力を選択する。
- エ．水を止めて効率を上げる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不要な疼痛や歯質損傷を増やし得る。
- イ：沈着物量・部位に合うチップ選択が必要である。
- ウ：パワーとチップは沈着物量、ポケット深さ、根面形態、患者の快適性に合わせる。
- エ：冷却不足になる。

総合解説：パワーとチップは沈着物量、ポケット深さ、根面形態、患者の快適性に合わせる。『強ければ良い』ではなく目的に必要な最小限を使う。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0066 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：標準

超音波スケーリング時のエアロゾル対策として最も適切なものはどれか。

- ア．エアロゾルは発生しないため防護不要である。
- イ．マスクや眼防護は患者が感染症と診断された時だけ使用する。
- ウ．吸引を使用すると必ず感染リスクが増える。
- エ．標準予防策に加え、高容量吸引や適切なPPEを用いて飛散・エアロゾル曝露を低減する。

答え・解説 正答：エ

- ア：超音波スケーリングではエアロゾルが発生する。
- イ：標準予防策は全患者に適用する。
- ウ：適切な高容量吸引は飛散低減に有用である。
- エ：超音波スケーリングでは水と口腔内微生物を含む飛散が生じ得るため、PPEと吸引を組み合わせる。

総合解説：超音波スケーリングでは水と口腔内微生物を含む飛散が生じ得るため、PPEと吸引を組み合わせる。感染症の診断有無ではなく処置の曝露リスクで防護を選ぶ。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0067 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：標準

歯周デブリドメントにおける手用器具と超音波器具の臨床効果について最も適切なのはどれか。

- ア．超音波器具は歯石除去に全く効果がない。
- イ．手用器具は必ず全症例で超音波より優れる。
- ウ．双方とも有効で、研究全体では一方が常に明確に優れるとは言えない。
- エ．超音波だけ使えばセルフケアは不要になる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：臨床で広く有効に用いられる。
- イ：研究結果は一貫した絶対的優位を示していない。
- ウ：系統的レビューでは手用・超音波の双方でPPDやCALの改善が得られ、大きな差は限定的である。
- エ：日常のプラーク管理が重要である。

総合解説：系統的レビューでは手用・超音波の双方でPPDやCALの改善が得られ、大きな差は限定的である。器具選択は部位、沈着物、患者、術者要因で決める。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0068 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：標準

薄い根面に対して高出力で同一点へチップを長時間当て続けている。最も適切な改善はどれか。

- ア．さらに出力を上げて根面を白くなるまで削る。
- イ．出力・チップを適正化し、軽圧で動かしながら必要な部位だけを処置する。
- ウ．注水を減らして熱を高める。
- エ．歯石がなくても同じ部位を繰り返し処置する。

答え・解説 正答：イ

- ア：過剰な歯質除去になる。
- イ：超音波・手用いずれでも過剰インスツルメンテーションは歯質損失を招く。
- ウ：熱損傷の危険がある。
- エ：不要な歯質損失を避ける。

総合解説：超音波・手用いずれでも過剰インスツルメンテーションは歯質損失を招く。沈着物除去を確認し、必要以上に操作しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0069 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：応用

多根歯の根分岐部など手用器具が到達しにくい部位での考え方として適切なのはどれか。

- ア．根分岐部は清掃不能なので必ず放置する。
- イ．適応する細い超音波チップ等を用い、手用器具と組み合わせてデブライドメントする。
- ウ．太いチップを高出力で無理に押し込む。
- エ．画像所見だけ見て臨床処置を評価しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：適切な器具選択でアクセスを改善できる。
- イ：超音波器具は細いチップによって凹部や根分岐部へアクセスしやすい場合がある。
- ウ：組織・歯質損傷の危険がある。
- エ：臨床的な触知・再評価も必要である。

総合解説：超音波器具は細いチップによって凹部や根分岐部へアクセスしやすい場合がある。一つの器具だけで全てを処置しようとするしない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0070 歯周病予防処置 > 超音波・エアスケーラー | 難易度：応用

広範囲の歯石、深いポケット、知覚過敏、エアロゾル管理の必要性がある患者で最も適切な考え方はどれか。

- ア．沈着物量、部位、疼痛、感染対策、使用可能な吸引環境を踏まえて手用・ソニック・超音波を組み合わせる。
- イ．効率だけを優先し患者の疼痛を考えない。
- ウ．超音波を使う場合は感染対策を省略する。
- エ．全ての部位に同一チップ・同一出力を固定する。

答え・解説 正答：ア

- ア：パワードリブ器具は効率的だが、患者・部位・感染対策を含めて適応を判断する。
- イ：患者快適性も器具選択要因である。
- ウ：標準予防策が必要である。
- エ：部位と沈着物に応じて調整する。

総合解説：パワードリブ器具は効率的だが、患者・部位・感染対策を含めて適応を判断する。器具選択は技術的問題と患者安全を統合して行う。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0071 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：基礎

スケーラー・キュレットをシャープニングする主な目的はどれか。

- ア．器具を意図的に鈍くして安全性を上げる。
- イ．ワーキングエンドを毎回別形態へ変える。
- ウ．切縁を鋭利に保ち、過大な力を使わず効率よく沈着物を除去できるようにする。
- エ．器具表面へ歯石を付着させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：鈍い刃では除去効率が低下し過大な力を要する。
- イ：本来の形態を保持する必要がある。
- ウ：鋭利な切縁は効率的な歯石除去と触覚向上に役立つ。
- エ：器具管理の目的と逆である。

総合解説：鋭利な切縁は効率的な歯石除去と触覚向上に役立つ。シャープニングでは元の器具形態を維持する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0072 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：基礎

鈍くなったキュレットを使い続けることで起こりやすいのはどれか。

- ア．歯石が自動的に剥がれやすくなる。
- イ．触覚が必ず鋭くなる。
- ウ．歯石除去により強い側方圧が必要となり、術者疲労や滑脱のリスクが増える。
- エ．器具が摩耗しなくなる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：切れ味低下により効率は落ちる。
- イ：鈍い刃は沈着物への食い込みが悪い。
- ウ：鈍い器具はより大きな力を必要とし、患者・術者双方の負担を増やす。
- エ：使用と研磨で器具は摩耗する。

総合解説：鈍い器具はより大きな力を必要とし、患者・術者双方の負担を増やす。切れ味を定期的に確認して早めに管理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0073 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：基礎

キュレットをシャープニングする際に特に維持すべき形態はどれか。

- ア．トウを鋭い針状に変える。
- イ．丸イトウと本来の刃部輪郭
- ウ．刃部を極端に細く削り続ける。
- エ．左右のワーキングエンドを同じ形に無理に変える。

答え・解説 正答：イ

- ア：縁下操作で軟組織を傷つける危険がある。
- イ：キュレットは丸イトウを保つことが重要で、過度な研磨で尖らせない。
- ウ：強度低下や破折リスクにつながる。
- エ：器具本来の設計を保持する。

総合解説：キュレットは丸イトウを保つことが重要で、過度な研磨で尖らせない。器具の設計特性を壊さないシャープニングが必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0074 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：標準

使用後の血液が付着したキュレットをシャープニングする前の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．血液が付いたまま素手で砥石に当てる。
- イ．尖端を他の器具と裸のまま混在させる。
- ウ．施設の感染管理手順に従って安全に洗浄・再処理し、汚染曝露を避けた状態で管理する。
- エ．患者使用後の器具を未処理で共有する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：職業曝露の危険がある。
- イ：刺傷リスクがある。
- ウ：シャープニングも器具再処理工程の安全性を考えて実施し、汚染器具による曝露を防ぐ。
- エ：交差感染につながる。

総合解説：シャープニングも器具再処理工程の安全性を考えて実施し、汚染器具による曝露を防ぐ。シャープニング後も患者使用前には適切な滅菌が必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0075 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：標準

シャープニング後の切れ味確認として適切なのはどれか。

- ア．自分の指先を切って確認する。
- イ．切縁を患者歯肉に当てて試す。
- ウ．確認せず必ず十分鋭いと仮定する。
- エ．専用のテストスティック等に切縁を適切に当て、滑らず食い込む感覚を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：刺傷・切創の危険があり不適切である。
- イ：患者安全上不適切である。
- ウ：シャープニング結果の評価が必要である。
- エ：テストスティックや視覚・触覚で切縁の鋭さを確認する。

総合解説：テストスティックや視覚・触覚で切縁の鋭さを確認する。安全な検査方法を用い、生体で試さない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0076 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：標準

必要以上に頻繁かつ大量に器具を削ると起こりやすい問題はどれか。

- ア．器具が太く強くなる。
- イ．切縁が永久に摩耗しなくなる。
- ウ．キュレットのトウが必ず丸く大きくなる。
- エ．刃部が薄くなり、本来の形態や強度を失う。

答え・解説 正答：エ

- ア：研磨では金属が除去される。
- イ：器具寿命は有限である。
- ウ：不適切研磨では尖ることもある。
- エ：スケーラー・キュレットは使用とシャープニングで徐々に摩耗し、薄くなった器具は交換が必要になる。

総合解説：スケーラー・キュレットは使用とシャープニングで徐々に摩耗し、薄くなった器具は交換が必要になる。必要最小限の研磨で切れ味と形態を維持する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0077 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：標準

ワーキングエンドに亀裂や明らかな曲がりがある器具への対応として最も適切なのはどれか。

- ア．使用を中止し、修復可否を確認して必要なら交換する。
- イ．そのまま深いポケットで使用する。
- ウ．曲がりを患者の口腔内で強引に戻す。
- エ．鋭ければ亀裂は問題ないと判断する。

答え・解説 正答：ア

- ア：器具管理では切れ味だけでなく、曲がり、亀裂、破損、摩耗、腐食を点検する。
- イ：破折・組織損傷の危険がある。
- ウ：安全でない。
- エ：金属疲労・破折リスクがある。

総合解説：器具管理では切れ味だけでなく、曲がり、亀裂、破損、摩耗、腐食を点検する。構造的に安全でない器具は臨床使用しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0078 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：標準

器具表面に明らかな腐食が認められる。最も適切な対応はどれか。

- ア．腐食部を無視して患者ごとに使用する。
- イ．腐食を歯石として患者歯面へ擦り付ける。
- ウ．器具を濡れた状態で長期放置する。
- エ．セットから分離し、器具管理手順に従って使用継続の可否を判断する。

答え・解説 正答：エ

- ア：表面劣化や他器具への影響が問題となる。
- イ：不適切である。
- ウ：腐食を助長し得る。
- エ：腐食は器具劣化のサインであり、臨床セットから除外して評価する。

総合解説：腐食は器具劣化のサインであり、臨床セットから除外して評価する。洗浄・乾燥・滅菌・保管まで一連の器具管理が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0079 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：応用

Graceyキュレットを繰り返し研磨した結果、トウが尖り刃部が左右対称に近くなってきた。最も適切な判断はどれか。

- ア．形態変化は性能に影響しないのでそのまま使う。
- イ．さらに両切縁を同じだけ削ってユニバーサル化する。
- ウ．本来のGracey形態が失われており、修正可能性を評価し、摩耗が大きければ交換する。
- エ．尖ったトウほど縁下で安全である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：適合性や安全性が低下する。
- イ：器具設計を変更することになる。
- ウ：シャープニングでは器具の元の断面・刃角・トウ形態を維持する必要がある。
- エ：軟組織損傷を招きやすい。

総合解説：シャープニングでは器具の元の断面・刃角・トウ形態を維持する必要がある。修正不能な摩耗器具は交換する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0080 歯周病予防処置 > 器具のシャープニング・管理 | 難易度：応用

歯周器具の長期的な品質管理として最も適切なのはどれか。

- ア．切れ味、形態、摩耗、破損、腐食を定期点検し、適切にシャープニング・再処理・交換する。
- イ．切れ味だけ確認し破損は見ない。
- ウ．滅菌できれば形態や摩耗は問題にしない。
- エ．交換時期を考えず無期限に使用する。

答え・解説 正答：ア

- ア：器具管理は感染対策、性能維持、患者安全を統合した品質保証である。
- イ：構造的安全性も重要である。
- ウ：器具性能・破折リスクに関係する。
- エ：器具には寿命がある。

総合解説：器具管理は感染対策、性能維持、患者安全を統合した品質保証である。適切な器具状態は処置効率と組織保護に直結する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0081 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：基礎

PMTC (Professional Mechanical Tooth Cleaning) の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．歯科医師・歯科衛生士が清掃器具を用いて、歯面のプラークを機械的に除去する専門的清掃
- イ．歯石を外科的に除去する手術だけを指す。
- ウ．患者自身が自宅で行う通常の歯みがきだけを指す。
- エ．歯髄を除去する処置を指す。

答え・解説 正答：ア

- ア：日本歯周病学会はPMTCを専門家が機械的に歯面プラークを除去する方法として整理している。
- イ：PMTCは機械的プラーク除去が中心である。
- ウ：専門職による機械的清掃である。
- エ：歯内療法である。

総合解説：日本歯周病学会はPMTCを専門家が機械的に歯面プラークを除去する方法として整理している。原則としてスケーリング・SRPとは別概念である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0082 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：基礎

PTCとPMTCの違いとして最も適切なのはどれか。

- ア．PMTCだけが必ず外科手術を含む。
- イ．PTCは患者自身の歯みがきだけを指す。
- ウ．PTCはプラーク除去、スケーリング・SRP、歯面研磨などを含む広い概念で、PMTCは機械的プラーク除去を中心とする。
- エ．両者とも根管治療の別名である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：PMTCは外科処置ではない。
- イ：専門職による歯面清掃である。
- ウ：日本歯周病学会資料ではPTCは専門的歯面清掃の広い概念、PMTCは機械的プラーク除去として区別される。
- エ：歯周予防・メインテナンスの用語である。

総合解説：日本歯周病学会資料ではPTCは専門的歯面清掃の広い概念、PMTCは機械的プラーク除去として区別される。国家試験ではPMTCと単なる歯面研磨を混同しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0083 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：基礎

歯面研磨の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．深い歯周ポケットの歯石を必ず研磨材だけで除去する。
- イ．歯髄を除去して根管を滑沢にする。
- ウ．顎骨を研磨する処置である。
- エ．沈着物除去後、露出した歯面をラバーカップやブラシ、研磨材などで滑沢にする操作

答え・解説 正答：エ

- ア：歯石除去はスケーリング等で行う。
- イ：歯面研磨ではない。
- ウ：対象は露出歯面である。
- エ：歯面研磨はブラーク・外来性沈着物・歯石を除去した後の露出歯面を滑沢にする操作である。

総合解説：歯面研磨はブラーク・外来性沈着物・歯石を除去した後の露出歯面を滑沢にする操作である。PMTCと歯面研磨は同義ではない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0084 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：標準

選択的歯面研磨の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．全歯面を毎回来院時に必ず粗いペーストで研磨する。
- イ．着色がなくても長時間強圧で研磨する。
- ウ．露出象牙質もエナメル質と同じ条件で強く研磨する。
- エ．スケーリング後も外来性着色が残るなど、研磨が必要な歯面を選んで処置する。

答え・解説 正答：エ

- ア：不要な歯質摩耗を増やし得る。
- イ：必要性に応じて限定する。
- ウ：象牙質は摩耗に注意が必要である。
- エ：選択的研磨は不要な歯質・修復物摩耗を避け、必要部位へ限定して行う考え方である。

総合解説：選択的研磨は不要な歯質・修復物摩耗を避け、必要部位へ限定して行う考え方である。『毎回すべて研磨』ではなく適応を判断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0085 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：標準

歯面研磨材の選択として最も適切なのはどれか。

- ア．着色の程度に関係なく最粗粒子を選ぶ。
- イ．修復材料の種類を考慮しない。
- ウ．研磨性が高いほど歯質保護に有利である。
- エ．目的を達成できる範囲で最も低い研磨性の材料を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

- ア：不要な摩耗を増やす。
- イ：修復物表面を粗造化する可能性がある。
- ウ：高研磨性は摩耗量を増やし得る。
- エ：歯面研磨では必要最小限の研磨性、圧、時間、速度を選ぶ。

総合解説：歯面研磨では必要最小限の研磨性、圧、時間、速度を選ぶ。 エナメル質、象牙質、修復物で材料選択を変える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0086 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：標準

ラバーカップによる歯面研磨で発熱や摩耗を抑える方法として最も適切なのはどれか。

- ア．高回転・強圧で同一点へ固定する。
- イ．研磨材なしで強く乾燥摩擦させる。
- ウ．軽い圧で短時間ずつ断続的に操作し、同一点へ長時間押し付けない。
- エ．歯肉ヘカップを深く押し込む。

答え・解説 正答：ウ

- ア：発熱と摩耗が増える。
- イ：熱と表面損傷の危険がある。
- ウ：研磨時は圧・速度・時間を制御し、発熱と過剰な歯質除去を防ぐ。
- エ：軟組織損傷を招く。

総合解説：研磨時は圧・速度・時間を制御し、発熱と過剰な歯質除去を防ぐ。 必要部位だけを効率的に処置する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0087 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：標準

コンポジットレジン修復物に外来性着色がある。歯面研磨で最も適切なのはどれか。

- ア．エナメル質用の最粗研磨材を高压で使用する。
- イ．修復材料に適した低研磨性の器具・ペーストを選び、表面粗造化を避ける。
- ウ．材料の種類を確認しない。
- エ．着色除去のため修復物を大きく削り取る。

答え・解説 正答：イ

- ア：修復物表面を粗造化し得る。
- イ：プロフィーペーストは修復材料の表面性状へ影響し得るため、材料に合う方法を選択する。
- ウ：材料ごとに研磨特性が異なる。
- エ：必要最小限の表面処置を選ぶ。

総合解説：プロフィーペーストは修復材料の表面性状へ影響し得るため、材料に合う方法を選択する。粗造化は再着色・ブランク停滞につながる可能性がある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0088 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：標準

フッ化物含有プロフィーペーストについて正しいのはどれか。

- ア．歯面研磨時に用いられることはあるが、高う蝕リスク者への専門的フッ化物塗布の代替とはならない。
- イ．これだけで高う蝕リスク者のフッ化物バーニッシュは必ず不要になる。
- ウ．フッ化物を含むペーストは研磨に使用できない。
- エ．プロフィーペーストは歯石除去専用である。

答え・解説 正答：ア

- ア：ADAはフッ化物含有プロフィーペーストを歯面研磨で使用する一方、高リスク者のフッ化物ゲル・バーニッシュの代替ではないとしている。
- イ：ADAは代替とみなしていない。
- ウ：臨床で使用される。
- エ：主に歯面研磨に使用する。

総合解説：ADAはフッ化物含有プロフィーペーストを歯面研磨で使用する一方、高リスク者のフッ化物ゲル・バーニッシュの代替ではないとしている。研磨とフッ化物予防処置の目的を分けて考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0089 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：応用

歯周メンテナンスでバイオフィルム除去を行う際、低研磨性パウダーによるエアポリッシングについて最も適切なのはどれか。

- ア．どの部位でも粗いパウダーを高圧で長時間噴射する。
- イ．大きな歯石もエアポリッシングだけで必ず完全除去できる。
- ウ．従来法よりすべての歯周指標で常に明確に優れる。
- エ．適応部位とパウダーを選べば、機械的デブライドメントの選択肢として利用できる。

答え・解説 正答：エ

- ア：歯質・軟組織への影響を考慮する必要がある。
- イ：歯石はスクレーリング等が必要な場合がある。
- ウ：系統的レビューでは一律の優越性は示されていない。
- エ：グリシンやエリスリトール等の低研磨性パウダーは、SPT等のバイオフィルム管理に利用される。

総合解説：グリシンやエリスリトール等の低研磨性パウダーは、SPT等のバイオフィルム管理に利用される。歯石量、根面、補綴・インプラント表面などを評価して適応を選ぶ。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0090 歯周病予防処置 > PMTC・歯面研磨 | 難易度：応用

定期PMTCを受けているが自宅ではほとんど歯を磨かない患者への説明として最も適切なのはどれか。

- ア．PMTCはセルフケアを補完するもので、日常のブラークコントロールを代替するものではない。
- イ．定期PMTCを受ければ家庭での清掃は完全に不要である。
- ウ．PMTC後はブラークが永久に付着しない。
- エ．セルフケア状況は次回来院時に評価しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：PMTCはセルフケアで除去困難な部位を専門的に支援する方法で、日常清掃と組み合わせて効果を発揮する。
- イ：ブラークは日々再形成する。
- ウ：短時間でバイオフィルムは再形成し始める。
- エ：継続予防ではセルフケア評価が重要である。

総合解説：PMTCはセルフケアで除去困難な部位を専門的に支援する方法で、日常清掃と組み合わせて効果を発揮する。定期来院だけに依存しない予防行動を支援する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0091 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：基礎

専門的フッ化物歯面塗布の主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．歯石を化学的に完全溶解する。
- イ．歯面へのフッ化物供給により再石灰化を促進し、脱灰を抑えてう蝕抵抗性を高める。
- ウ．歯髄を失活させる。
- エ．歯周ポケットを外科的に除去する。

答え・解説 正答：イ

- ア：フッ化物歯面塗布の目的ではない。
- イ：フッ化物は歯面局所で脱灰抑制と再石灰化促進に働き、う蝕予防に用いられる。
- ウ：歯髄処置ではない。
- エ：歯周外科処置ではない。

総合解説：フッ化物は歯面局所で脱灰抑制と再石灰化促進に働き、う蝕予防に用いられる。フッ化物歯面塗布はセルフケアや食習慣管理を補完する専門的予防処置である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0092 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：基礎

2.26%フッ化物バーニッシュのフッ化物イオン濃度として正しいのはどれか。

- ア．約226ppmF（2.26%の換算桁を小さく見積もった値）
- イ．約22,600ppmF（ $2.26\% \times 10,000$ で換算した値）
- ウ．約1,000ppmF（歯磨剤レベルと混同した値）
- エ．約145,000ppmF（濃度換算を過大にした値）

答え・解説 正答：イ

- ア：桁が2つ小さい。
- イ：2.26%フッ化物バーニッシュは約22,600ppmFに相当する高濃度局所応用剤である。
- ウ：一般的な2.26%バーニッシュの濃度ではない。
- エ：2.26%フッ化物イオンの濃度を大きく上回る。

総合解説：2.26%フッ化物バーニッシュは約22,600ppmFに相当する高濃度局所応用剤である。高濃度であるため少量を専門職が適切に使用する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0093 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：基礎

ADAの専門的局所フッ化物ガイドラインで、6歳未満の小児に推奨される剤型はどれか。

- ア．2.26%フッ化物バーニッシュ
- イ．1.23%APFゲルを全例に使用する。
- ウ．0.09%フッ化物洗口を必ず処方する。
- エ．高濃度フッ化物フォームを全例に使用する。

答え・解説 正答：ア

ア：ADAのガイドラインでは6歳未満には2.26%フッ化物バーニッシュが推奨される。
イ：6歳未満ではバーニッシュが推奨される。
ウ：嚥下リスクを考慮する必要がある。
エ：6歳未満で推奨される剤型ではない。

総合解説：ADAのガイドラインでは6歳未満には2.26%フッ化物バーニッシュが推奨される。年齢だけでなく嚥下能力やう蝕リスクも評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0094 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：基礎

専門的フッ化物応用で用いられるAPFゲルの代表的フッ化物濃度はどれか。

- ア．1.23%F（APFゲルの代表的濃度）
- イ．0.023%F（代表濃度より著しく低い値）
- ウ．0.145%F（約1,450ppmFで歯磨剤濃度に近い値）
- エ．2.26%F（フッ化物バーニッシュの代表濃度と混同した値）

答え・解説 正答：ア

ア：ADAガイドラインでは6歳以上のう蝕リスク者に1.23% APFゲルが選択肢として挙げられる。
イ：代表的APFゲルより低濃度である。
ウ：一般的な歯磨剤レベルに近く、APFゲルの代表濃度ではない。
エ：これはフッ化物バーニッシュで用いられる代表濃度で、APFゲルの代表濃度ではない。

総合解説：ADAガイドラインでは6歳以上のう蝕リスク者に1.23% APFゲルが選択肢として挙げられる。剤型・濃度・年齢を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0095 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：標準

専門的フッ化物塗布を計画する際に最も重要なのはどれか。

- ア．う蝕経験、口腔衛生、食習慣、唾液、フッ化物利用状況などからう蝕リスクを評価する。
- イ．全患者へ同一濃度・同一頻度で無条件に行う。
- ウ．過去のう蝕歴は確認しない。
- エ．他のフッ化物利用状況は考慮しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：専門的フッ化物はう蝕リスクの高い患者で特に有用で、患者背景に応じて適応と頻度を決める。
- イ：リスクと年齢等に応じて個別化する。
- ウ：疾病指標は重要なリスク情報である。
- エ：総フッ化物曝露を把握する。

総合解説：専門的フッ化物はう蝕リスクの高い患者で特に有用で、患者背景に応じて適応と頻度を決める。 リスク評価→介入→再評価の流れで管理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0096 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：標準

高濃度フッ化物バーニッシュを薄く少量塗布する理由として最も適切なのはどれか。

- ア．厚く塗るほど必ず効果が比例して増えるため
- イ．唾液に触れると完全に無効になるため
- ウ．歯面を削るため
- エ．必要な歯面へ局所的に作用させつつ、嚥下されるフッ化物量を抑えるため

答え・解説 正答：エ

- ア：必要量を超える塗布は安全性・快適性上望ましくない。
- イ：バーニッシュは唾液との接触で硬化する製品が多い。
- ウ：塗布剤であり切削材ではない。
- エ：バーニッシュは高濃度フッ化物を少量で歯面に保持させる方法である。

総合解説：バーニッシュは高濃度フッ化物を少量で歯面に保持させる方法である。適切な塗布量は誤嚥・嚥下リスク低減にもつながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0097 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：標準

フッ化物含有プロフィーペーストと専門的フッ化物塗布の関係として正しいのはどれか。

- ア．プロフィーペーストは歯面研磨に用いられるが、高う蝕リスク者へのフッ化物バーニッシュ等の代替ではない。
- イ．両者は濃度・目的・適応が完全に同一である。
- ウ．プロフィーペーストだけで高リスク者の追加フッ化物は不要になる。
- エ．フッ化物含有プロフィーペーストは研磨に使用できない。

答え・解説 正答：ア

- ア：フッ化物含有プロフィーペーストは歯面研磨材であり、う蝕高リスク者への専門的局所フッ化物剤とは位置づけが異なる。
- イ：研磨と専門的フッ化物処置は目的が異なる。
- ウ：ADAは代替とみなしていない。
- エ：実際に歯面研磨で用いられる。

総合解説：フッ化物含有プロフィーペーストは歯面研磨材であり、う蝕高リスク者への専門的局所フッ化物剤とは位置づけが異なる。PMTC・研磨とフッ化物予防処置を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0098 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：標準

う蝕リスクが高い患者の専門的フッ化物塗布について最も適切なのはどれか。

- ア．一生に1回だけ塗布すれば効果は永久に続く。
- イ．リスクや年齢に応じて定期的な再塗布を計画し、効果とリスクを再評価する。
- ウ．低リスク・高リスクを区別せず毎日診療室で塗布する。
- エ．塗布後は食習慣やセルフケアの管理を中止する。

答え・解説 正答：イ

- ア：継続的な再塗布が必要な場合がある。
- イ：フッ化物バーニッシュ等はう蝕リスクに応じた間隔で繰り返し応用する。
- ウ：患者ごとのリスクに応じて頻度を決める。
- エ：う蝕は多因子性であり包括的管理が必要である。

総合解説：フッ化物バーニッシュ等はう蝕リスクに応じた間隔で繰り返し応用する。フッ化物単独ではなく食事・ブラーク・唾液等も管理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0099 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：標準

嚥下反射が未熟で大量の薬剤を飲み込みやすい幼児へ専門的フッ化物を行う。最も適切なのはどれか。

- ア．トレーへ大量の高濃度ゲルを満たして長時間保持させる。
- イ．年齢と嚥下能力を考慮し、適応するバーニッシュを必要最小量で塗布する。
- ウ．誤嚥リスクを評価しない。
- エ．塗布量を記録しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：嚥下量が増える危険がある。
- イ：幼児では高濃度剤の誤嚥・嚥下を最小化するため、バーニッシュの少量応用が適している。
- ウ：小児では特に重要である。
- エ：安全管理と継続管理のため記録する。

総合解説：幼児では高濃度剤の誤嚥・嚥下を最小化するため、バーニッシュの少量応用が適している。年齢・協力度・嚥下能力を安全評価へ含める。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0100 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：標準

歯肉退縮が多く根面う蝕リスクが高い高齢者への予防として最も適切なのはどれか。

- ア．根面が露出しているためフッ化物は使用できない。
- イ．根面の清掃性や口腔乾燥を評価し、専門的フッ化物塗布を含むリスクベースの予防を行う。
- ウ．清掃や唾液状態を評価しない。
- エ．全ての根面を修復処置だけで管理する。

答え・解説 正答：イ

- ア：根面う蝕予防にもフッ化物が用いられる。
- イ：露出根面はエナメル質より脱灰しやすく、フッ化物とブラーク・乾燥管理が重要である。
- ウ：根面う蝕リスクに大きく関係する。
- エ：予防・非修復的介入も重要である。

総合解説：露出根面はエナメル質より脱灰しやすく、フッ化物とブラーク・乾燥管理が重要である。高齢者では薬剤性口腔乾燥やセルフケア能力も評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0101 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：応用

フッ化物バーニッシュを定期的に受けているが、新しいう蝕が増えている患者で最も適切なのはどれか。

- ア．バーニッシュを受けているので他の原因評価は不要とする。
- イ．フッ化物塗布だけに依存せず、糖質摂取頻度、ブラーク、唾液、既往う蝕、セルフケアを再評価して計画を修正する。
- ウ．新しいう蝕はフッ化物塗布と無関係なので記録しない。
- エ．患者の食習慣を確認せず塗布量だけ増やす。

答え・解説 正答：イ

- ア：う蝕は多因子性である。
- イ：フッ化物は重要な防御因子だが、う蝕リスクは複数因子のバランスで決まる。
- ウ：疾病活動性は重要な再評価情報である。
- エ：原因因子への介入が必要である。

総合解説：フッ化物は重要な防御因子だが、う蝕リスクは複数因子のバランスで決まる。予防処置の効果が不十分ならリスク評価へ戻り包括的に修正する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0102 う蝕予防処置 > フッ化物歯面塗布 | 難易度：応用

5歳の高う蝕リスク児と10歳の高う蝕リスク児に専門的フッ化物を検討する。ADAガイドラインに沿う考え方として最も適切なのはどれか。

- ア．両者とも年齢に関係なくAPFゲルだけを使用する。
- イ．5歳児では2.26%バーニッシュを選び、10歳児ではバーニッシュまたは1.23%APFゲル等を候補として個別判断する。
- ウ．5歳児には高濃度洗口だけを処方する。
- エ．10歳児では専門的フッ化物は使用できない。

答え・解説 正答：イ

- ア：6歳未満ではバーニッシュが推奨される。
- イ：年齢によって安全性と推奨剤型が異なるため、う蝕リスクと合わせて選択する。
- ウ：嚥下能力を考慮する必要がある。
- エ：高リスクなら専門的フッ化物が選択肢となる。

総合解説：年齢によって安全性と推奨剤型が異なるため、う蝕リスクと合わせて選択する。剤型選択は年齢だけでなく患者のニーズ・協力度・既往も考慮する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0103 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：基礎

小窩裂溝填塞（シーラント）の主な目的はどれか。

- ア．歯髄を除去する。
- イ．清掃しにくい小窩裂溝を材料で封鎖し、細菌・栄養源の侵入を抑えてう蝕を予防する。
- ウ．歯石を歯周ポケットから除去する。
- エ．歯を矯正移動する。

答え・解説 正答：イ

- ア：歯内療法ではない。
- イ：シーラントは解剖学的に清掃困難な小窩裂溝を物理的に封鎖する予防処置である。
- ウ：歯周処置ではない。
- エ：矯正装置ではない。

総合解説：シーラントは解剖学的に清掃困難な小窩裂溝を物理的に封鎖する予防処置である。咬合面う蝕の一次・二次予防に用いられる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0104 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：基礎

小窩裂溝填塞の代表的な適応部位はどれか。

- ア．平滑で清掃良好な前歯唇面全体
- イ．歯肉ポケット底
- ウ．根尖孔
- エ．臼歯の深い咬合面小窩裂溝

答え・解説 正答：エ

- ア：代表的適応ではない。
- イ：歯周組織への処置ではない。
- ウ：歯内療法の領域である。
- エ：シーラントは形態的にブラークが停滞しやすい小窩裂溝へ適用する。

総合解説：シーラントは形態的にブラークが停滞しやすい小窩裂溝へ適用する。乳臼歯・永久臼歯ともリスクに応じて対象となり得る。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0105 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：基礎

非窩洞性の初期咬合面う蝕に対するシーラントについて正しいのはどれか。

- ア．初期病変でも必ず大きく切削しなければならない。
- イ．シーラントは健全歯にしか使用できない。
- ウ．適切に封鎖できれば病変の進行抑制に役立つ。
- エ．封鎖すると必ず病変が急速進行する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：非修復的管理が可能な場合がある。
- イ：非窩洞性病変の進行抑制にも推奨される。
- ウ：ADA/AAPDガイドラインでは、シーラントは非窩洞性咬合面う蝕の進行を抑制できるとしている。
- エ：適切な封鎖は進行抑制に有効である。

総合解説：ADA/AAPDガイドラインでは、シーラントは非窩洞性咬合面う蝕の進行を抑制できるとしている。病変の活動性と窩洞形成の有無を評価して適応を決める。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0106 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：標準

レジン系シーラントで防湿が特に重要な理由は何ですか。

- ア．唾液が多いほどレジンの保持力が必ず高くなる。
- イ．防湿すると材料が必ず硬化しなくなる。
- ウ．唾液汚染によりエッチングしたエナメル質への接着・保持が低下するため
- エ．防湿は歯肉出血を増やすため

答え・解説 正答：ウ

- ア：唾液汚染は接着を阻害する。
- イ：適切な防湿は接着を安定させる。
- ウ：レジン系シーラントでは酸処理面を唾液で汚染しないことが保持性に重要である。
- エ：主目的は接着面汚染の防止である。

総合解説：レジン系シーラントでは酸処理面を唾液で汚染しないことが保持性に重要である。協力度や萌出状態により材料選択を調整することもある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0107 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：標準

レジン系シーラント前の酸処理（エッチング）の主な目的はどれか。

- ア．歯髄を失活させる。
- イ．歯石を完全溶解する。
- ウ．エナメル質表面に微細な凹凸を作り、レジンの機械的保持を高める。
- エ．歯根を短くする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：酸処理の目的ではない。
- イ：歯石除去処置ではない。
- ウ：酸処理によりエナメル表面の微細構造が変化し、レジントグ形成による保持が得られる。
- エ：歯根形成とは無関係である。

総合解説：酸処理によりエナメル表面の微細構造が変化し、レジントグ形成による保持が得られる。エッチング後の汚染防止が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0108 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：標準

永久臼歯が萌出途中で十分な防湿が困難である。シーラント材料選択で考慮すべきことはどれか。

- ア．防湿できないほどレジン系だけを必ず選ぶ。
- イ．萌出途中の歯は永久に予防対象外とする。
- ウ．材料の保持性や患者条件は考えない。
- エ．保持性だけでなく湿潤環境への許容性を考え、グラスアイオノマー系等も候補として適応を判断する。

答え・解説 正答：エ

- ア：材料特性と臨床条件を考慮する。
- イ：う蝕リスクが高い時期であり予防を検討する。
- ウ：臨床状況に応じた選択が必要である。
- エ：シーラント材料にはレジン系やグラスアイオノマー系等があり、保持性と防湿条件を考慮する。

総合解説：シーラント材料にはレジン系やグラスアイオノマー系等があり、保持性と防湿条件を考慮する。萌出途上歯では特に水分管理が難しい。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0109 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：標準

小窩裂溝填塞直後に確認すべき事項として最も適切なのはどれか。

- ア．材料を置いたら確認せず終了する。
- イ．シーラント後は歯面を観察してはいけない。
- ウ．材料の被覆・保持状態と咬合干渉の有無を確認する。
- エ．咬合はシーラントの厚さと無関係である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不完全封鎖や高い咬合を見逃す。
- イ：処置結果を評価する。
- ウ：処置後は小窩裂溝の封鎖状態、気泡・欠損、保持、咬合を確認する。
- エ：過剰材料は咬合干渉を起こし得る。

総合解説：処置後は小窩裂溝の封鎖状態、気泡・欠損、保持、咬合を確認する。初回処置だけでなく定期的な保持確認が必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0110 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：標準

定期健診でシーラントの一部脱落が認められた。最も適切な対応はどれか。

- ア．一度脱落したらその歯は今後観察不要とする。
- イ．残存シーラントを見ずに必ず修復処置へ進む。
- ウ．歯面とう蝕状態を再評価し、必要に応じてシーラントを補修・再填塞する。
- エ．脱落部へブラークがあっても放置する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：露出裂溝の再評価が必要である。
- イ：病変と保持状態を確認する。
- ウ：シーラントは経年的に摩耗・脱落し得るため、定期健診で保持状態を確認する。
- エ：清掃・予防介入が必要である。

総合解説：シーラントは経年的に摩耗・脱落し得るため、定期健診で保持状態を確認する。保持不良は再介入のサインである。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0111 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：応用

深い小窩裂溝をもつ高う蝕リスク児の予防として最も適切な考え方はどれか。

- ア．シーラントを行えば他のう蝕予防はすべて不要である。
- イ．シーラントで裂溝を封鎖しつつ、フッ化物や食事・口腔清掃も組み合わせて総合的に管理する。
- ウ．フッ化物を使えば深い裂溝の封鎖は一切検討しない。
- エ．予防処置は一種類だけ選ばなければならない。

答え・解説 正答：イ

- ア：う蝕は多因子性である。
- イ：シーラントは小窩裂溝という局所リスクへ、フッ化物等は歯面全体の脱灰再石灰化へ働く。
- ウ：局所形態に応じてシーラントが有効である。
- エ：複数介入を組み合わせる。

総合解説：シーラントは小窩裂溝という局所リスクへ、フッ化物等は歯面全体の脱灰再石灰化へ働く。リスク因子ごとに介入を組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0112 う蝕予防処置 > 小窩裂溝填塞 | 難易度：応用

咬合面に明らかな大きな窩洞があり、象牙質への進行が疑われる歯に対して最も適切なのはどれか。

- ア．大きな窩洞でも必ずシーラントだけで封鎖する。
- イ．病変の深さを確認しない。
- ウ．シーラントだけで処置を完結せず、病変の広がりを診断して必要な修復治療を検討する。
- エ．疼痛や歯髄症状があっても予防処置だけ行う。

答え・解説 正答：ウ

- ア：修復治療が必要な病変では適応が異なる。
- イ：診断に基づく処置選択が必要である。
- ウ：シーラントは健全または非窩洞性の小窩裂溝病変に適するが、明らかな窩洞性病変では修復適応を評価する。
- エ：歯髄・修復診断を優先する。

総合解説：シーラントは健全または非窩洞性の小窩裂溝病変に適するが、明らかな窩洞性病変では修復適応を評価する。予防処置の適応限界を理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0113 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：基礎

小児のう蝕リスク評価で用いる考え方として最も適切なのはどれか。

- ア．社会・行動・医学的因子、臨床因子、防御因子、疾病指標を総合する。
- イ．年齢と性別だけで判定する。
- ウ．現在のう蝕本数だけを見て将来リスクを決める。
- エ．患者の生活背景は一切考慮しない。

答え・解説 正答：ア

ア：AAPDは複数カテゴリーの因子を組み合わせで低・中・高リスクを判断する。
イ：う蝕は多因子性である。
ウ：防御因子や行動因子も評価する。
エ：社会・行動因子も重要である。

総合解説：AAPDは複数カテゴリーの因子を組み合わせで低・中・高リスクを判断する。 リスク評価は診断ではなく将来発症可能性を見積もるために用いる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0114 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：基礎

う蝕リスク評価で高リスクを示唆する強い情報はどれか。

- ア．最近の新生う蝕や活動性白斑など、現在・過去の疾病活動を示す所見
- イ．定期的なフッ化物利用
- ウ．良好な口腔衛生
- エ．砂糖摂取頻度が低い

答え・解説 正答：ア

ア：新生う蝕や活動性病変などの疾病指標は、将来う蝕リスクを判断する重要な情報である。
イ：防御因子である。
ウ：一般にリスクを下げる方向に働く。
エ：リスク低下に有利である。

総合解説：新生う蝕や活動性病変などの疾病指標は、将来う蝕リスクを判断する重要な情報である。 疾患経験を単なる既往歴として軽視しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0115 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：標準

う蝕リスクを低下させる防御因子として最も適切なのはどれか。

- ア．頻回の糖質飲料摂取
- イ．強い口腔乾燥
- ウ．適切なフッ化物利用と良好なブラークコントロール
- エ．活動性う蝕の存在

答え・解説 正答：ウ

- ア：う蝕リスクを高める。
- イ：唾液の防御機能が低下する。
- ウ：フッ化物、唾液、良好な口腔衛生などは脱灰と再石灰化のバランスを改善する防御因子となる。
- エ：疾病指標であり高リスクを示す。

総合解説：フッ化物、唾液、良好な口腔衛生などは脱灰と再石灰化のバランスを改善する防御因子となる。病原因子だけでなく防御因子も評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0116 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：標準

う蝕リスクを高めやすい食習慣はどれか。

- ア．食事回数を決め、間食頻度を抑える。
- イ．無糖飲料を中心にする。
- ウ．糖質を含む飲食物を少量ずつ頻回に摂取する。
- エ．就寝前の歯みがきを行う。

答え・解説 正答：ウ

- ア：酸性環境となる回数を減らす方向である。
- イ：糖質曝露を減らす。
- ウ：う蝕では糖質の総量だけでなく摂取頻度が重要で、頻回摂取は歯面pH低下の機会を増やす。
- エ：ブラーク管理に有利である。

総合解説：う蝕では糖質の総量だけでなく摂取頻度が重要で、頻回摂取は歯面pH低下の機会を増やす。食事指導は患者の実際の生活パターンに合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0117 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：標準

多剤服用による口腔乾燥があり、根面う蝕が増加している。最も適切な管理はどれか。

- ア．乾燥とう蝕は無関係として対応しない。
- イ．原因薬剤や水分・唾液状態を確認し、フッ化物、清掃、食事、必要な医科連携を組み合わせる。
- ウ．患者へ自己判断で処方薬を中止させる。
- エ．修復だけ行い予防管理を行わない。

答え・解説 正答：イ

- ア：唾液低下はう蝕リスクを高める。
- イ：唾液低下では緩衝・洗浄・再石灰化作用が低下し、根面う蝕リスクが上昇する。
- ウ：処方医との連携が必要である。
- エ：再発リスク管理が必要である。

総合解説：唾液低下では緩衝・洗浄・再石灰化作用が低下し、根面う蝕リスクが上昇する。原因への対応と局所予防を組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0118 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：標準

同年代の2人のうち、一方は新生う蝕が複数あり、もう一方は長期間う蝕がない。最も適切なのはどれか。

- ア．両者を全く同じ頻度・同じ処置で管理する。
- イ．低リスク者ほど高濃度処置を頻回に行う。
- ウ．高リスク者ではより密な再評価とフッ化物・シーラント等を検討し、低リスク者には過剰介入を避ける。
- エ．高リスク者でも疾病活動性を再評価しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：リスクに応じた個別化が必要である。
- イ：利益と負担を考慮する。
- ウ：う蝕リスク評価は診査・予防・再評価間隔を個別化するために用いる。
- エ：継続的再評価が必要である。

総合解説：う蝕リスク評価は診査・予防・再評価間隔を個別化するために用いる。リスクが変化すれば管理計画も変更する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0119 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：応用

高リスクとして管理していた患者で1年間新生う蝕がなく、食習慣と口腔衛生も大きく改善した。最も適切なのはどれか。

- ア．一度高リスクと判定したら生涯変更しない。
- イ．改善したので今後の予防は全て中止する。
- ウ．過去データは比較せず現在だけ見る。
- エ．現在の疾病活動性と防御因子を再評価し、必要ならリスク区分や管理間隔を見直す。

答え・解説 正答：エ

- ア：リスクは時間とともに変化する。
- イ：維持に必要な予防は継続する。
- ウ：経時変化の比較が重要である。
- エ：リスク評価は固定ラベルではなく、疾病活動性や行動・防御因子の変化に応じて更新する。

総合解説：リスク評価は固定ラベルではなく、疾病活動性や行動・防御因子の変化に応じて更新する。再評価は過剰介入と介入不足の両方を防ぐ。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0120 う蝕予防処置 > う蝕リスク管理 | 難易度：応用

新生う蝕、多量ブラーク、頻回糖質摂取、口腔乾燥がある患者で最も適切な管理計画はどれか。

- ア．活動性病変への対応に加え、フッ化物、ブラーク管理、食事、乾燥対策を優先順位を付けて継続する。
- イ．最も大きなう蝕1歯だけ修復し他のリスクは無視する。
- ウ．全ての問題を一度に説明し実行可能性を考えない。
- エ．フッ化物だけで全リスクを解決できると説明する。

答え・解説 正答：ア

- ア：高う蝕リスクでは病変治療と原因・防御因子への多面的介入を並行する。
- イ：新生病変の再発を防げない。
- ウ：段階的・患者中心の計画が必要である。
- エ：う蝕は多因子性である。

総合解説：高う蝕リスクでは病変治療と原因・防御因子への多面的介入を並行する。患者が継続できる具体的な行動目標へ落とし込む。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0121 メインテナンス > 再評価 | 難易度：基礎

歯科予防処置後に再評価を行う主な目的はどれか。

- ア．一度決めた計画を変更しないため
- イ．処置を行った回数だけを数えるため
- ウ．介入前後の所見を比較して効果を判定し、次の計画を修正するため
- エ．初診時の記録を破棄するため

答え・解説 正答：ウ

- ア：結果に応じて修正する。
- イ：アウトカム評価が重要である。
- ウ：再評価では臨床指標と患者行動を初診時・前回と比較し、介入の有効性を判断する。
- エ：経時比較に必要である。

総合解説：再評価では臨床指標と患者行動を初診時・前回と比較し、介入の有効性を判断する。評価結果が次のアセスメントと計画につながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0122 メインテナンス > 再評価 | 難易度：基礎

歯周基本治療後の再評価で確認すべき組合せはどれか。

- ア．歯の色だけ
- イ．身長と視力だけ
- ウ．補綴物の価格だけ
- エ．ブラーク、BOP、PPD、CAL、歯の動揺、患者のセルフケア

答え・解説 正答：エ

- ア：歯周治療反応を十分評価できない。
- イ：歯周再評価の主要項目ではない。
- ウ：治療反応の指標ではない。
- エ：歯周再評価では炎症、ポケット、付着、リスク因子、セルフケアを総合する。

総合解説：歯周再評価では炎症、ポケット、付着、リスク因子、セルフケアを総合する。単一指標だけで治療成否を決めない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0123 メインテナンス > 再評価 | 難易度：基礎

高う蝕リスク患者の再評価で特に重要なのはどれか。

- ア．初診時のリスク判定だけを永久に使用する。
- イ．修復物の色だけを評価する。
- ウ．予防行動の実行状況は確認しない。
- エ．新生う蝕・初期病変の活動性、プラーク、食習慣、唾液、フッ化物利用状況

答え・解説 正答：エ

- ア：リスクは変化する。
- イ：う蝕活動性と原因因子を評価する。
- ウ：介入効果と継続性に重要である。
- エ：う蝕再評価では疾病活動性と病原因子・防御因子の変化を確認する。

総合解説：う蝕再評価では疾病活動性と病原因子・防御因子の変化を確認する。新生病変があれば管理計画の強化を検討する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0124 メインテナンス > 再評価 | 難易度：標準

初診時PCRが60％、再評価時が30％であった。変化として正しいのはどれか。

- ア．30ポイント上昇した。
- イ．変化は0ポイントである。
- ウ．30ポイント低下し、プラークコントロールは改善している。
- エ．PCRだけで歯周病が完全治癒したと断定できる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：60％から30％へ低下している。
- イ：30ポイント差がある。
- ウ：PCRは60％から30％へ30ポイント低下している。
- エ：他の歯周所見も評価する。

総合解説：PCRは60％から30％へ30ポイント低下している。改善を評価しつつBOPやPPD等も組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0125 メインテナンス > 再評価 | 難易度：標準

SRP後、PPDは減少したが一部にBOP陽性が残っている。最も適切なのはどれか。

- ア．PPDが減少したのでBOPは無視する。
- イ．BOP陽性部位は必ず抜歯する。
- ウ．再評価せず同じ処置を全歯へ繰り返す。
- エ．残存炎症部位のブラーク、歯石、清掃状況、根面形態を再評価して追加介入を検討する。

答え・解説 正答：エ

- ア：炎症が残っている可能性がある。
- イ：単一所見で抜歯適応は決まらない。
- ウ：部位別に原因を確認する。
- エ：治療反応は複数指標で判断し、残存炎症部位を重点的に再評価する。

総合解説：治療反応は複数指標で判断し、残存炎症部位を重点的に再評価する。再介入は必要部位に限定する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0126 メインテナンス > 再評価 | 難易度：標準

SRP後、浅いPPDでBOP陰性となりブラークも良好な部位への対応として最も適切なのはどれか。

- ア．改善していても毎回強いSRPを行う。
- イ．良好なので今後一切観察しない。
- ウ．歯石がなくても根面を滑沢にするため削り続ける。
- エ．不必要な再SRPを避け、セルフケアと定期的な観察を継続する。

答え・解説 正答：エ

- ア：歯質損傷のリスクがある。
- イ：維持管理は必要である。
- ウ：過剰切削を避ける。
- エ：改善した部位は維持管理へ移行し、必要以上の機械的介入を行わない。

総合解説：改善した部位は維持管理へ移行し、必要以上の機械的介入を行わない。再評価は過剰治療を防ぐ役割もある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0127 メインテナンス > 再評価 | 難易度：標準

臨床所見は改善しているが、患者が『処置後から冷たい物が強くしみる』と訴えた。最も適切なのはどれか。

- ア．臨床所見が改善しているので訴えを無視する。
- イ．知覚過敏は予防処置と無関係と決めつける。
- ウ．症状を記録しない。
- エ．患者報告を記録し、知覚過敏の部位・程度・持続を評価して必要な対策を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：患者症状もアウトカムの一部である。
- イ：SRP後などに生じることがある。
- ウ：継続ケアのため記録する。
- エ：再評価では客観的所見だけでなく患者の症状・満足度・実行可能性も確認する。

総合解説：再評価では客観的所見だけでなく患者の症状・満足度・実行可能性も確認する。予防処置の利益と有害反応を両方評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0128 メインテナンス > 再評価 | 難易度：標準

歯間清掃の目標が達成できず、患者は用具の操作が難しいと話している。最も適切なのはどれか。

- ア．用具サイズ、操作方法、手指機能、生活場면을再評価し、代替法を患者と検討する。
- イ．努力不足と判断して同じ指示だけを繰り返す。
- ウ．歯間清掃を永久に諦める。
- エ．患者の希望を聞かず目標を高くする。

答え・解説 正答：ア

- ア：目標未達時は患者要因・用具・方法・環境を再評価し、実行可能な計画へ修正する。
- イ：実行障壁を評価する必要がある。
- ウ：別の用具・介助方法を検討できる。
- エ：共有意思決定が重要である。

総合解説：目標未達時は患者要因・用具・方法・環境を再評価し、実行可能な計画へ修正する。評価は患者を採点するためではなくケア改善のために行う。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0129 メインテナンス > 再評価 | 難易度：応用

歯周基本治療後も複数の深いポケットとBOPが残り、セルフケアは良好である。最も適切なのはどれか。

- ア．セルフケアが良ければ深いポケットは無視する。
- イ．全例ただちに抜歯する。
- ウ．残存病変の原因と予後を再評価し、必要に応じて追加非外科治療や歯周外科の適応を検討する。
- エ．再評価データを治療計画へ反映しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：残存病変の評価が必要である。
- イ：歯の保存可能性を評価する。
- ウ：再評価は基本治療から次の治療段階へ進むかを判断する重要な節目である。
- エ：次の治療段階を決める根拠となる。

総合解説：再評価は基本治療から次の治療段階へ進むかを判断する重要な節目である。残存病変は部位・形態・リスクに応じて対応する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0130 メインテナンス > 再評価 | 難易度：応用

歯周所見、う蝕リスク、セルフケア、患者の生活環境がすべて改善した。次の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．改善を記録し、再発リスクに応じたメインテナンス計画へ移行して定期的に再評価する。
- イ．改善したので予防管理を完全に終了する。
- ウ．初診時と同じ高強度介入を永久に続ける。
- エ．改善した項目を記録しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：再評価で安定が確認できたら、状態を維持するための継続管理へ移行する。
- イ：再発・新規発症予防の継続管理が必要である。
- ウ：現在のリスクに応じて調整する。
- エ：経時的評価のため記録する。

総合解説：再評価で安定が確認できたら、状態を維持するための継続管理へ移行する。リスクが再上昇した場合は介入強度を再び調整する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0131 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：基礎

サポーティブペリオドンタルセラピー（SPT）の対象として最も適切なのはどれか。

- ア．歯周治療後に病状が安定しているが、継続的な専門管理が必要な患者
- イ．歯周病がなく予防介入も不要な患者だけ
- ウ．急性膿瘍で緊急処置が必要な患者だけ
- エ．未治療の重度歯周炎で基本治療を全く行っていない患者だけ

答え・解説 正答：ア

- ア：日本歯周病学会ガイドラインでは病状安定に対してSPTを行う。
- イ：SPTは歯周治療後の病状安定例などに行う。
- ウ：急性期治療とは異なる。
- エ：まず歯周治療が必要である。

総合解説：日本歯周病学会ガイドラインでは病状安定に対してSPTを行う。治療後のメインテナンスと病状安定時のSPTを区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0132 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：基礎

歯周治療後の『治癒』状態に対して行う継続管理として適切なのはどれか。

- ア．病状安定例にのみ行うSPTと必ず同義である。
- イ．急性炎症に対する緊急切開のみ
- ウ．適切な間隔でのメインテナンス
- エ．歯周検査を行わない放置

答え・解説 正答：ウ

- ア：ガイドラインでは状態に応じて区別している。
- イ：維持管理ではない。
- ウ：歯周治療ガイドラインでは治癒後はメインテナンス、病状安定ではSPTとして継続管理する。
- エ：定期的評価を含む。

総合解説：歯周治療ガイドラインでは治癒後はメインテナンス、病状安定ではSPTとして継続管理する。状態の区分に応じた名称と内容を理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0133 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：基礎

SPTに含まれる内容として適切なものはどれか。

- ア．毎回全歯を外科手術する。
- イ．歯周組織の再評価、口腔衛生指導、専門的機械的歯面清掃、必要部位のSRPなど
- ウ．セルフケアの確認を行わない。
- エ．病状を記録しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：SPTの標準内容ではない。
- イ：SPTでは再発・進行を早期に発見し、必要な非外科的介入とセルフケア支援を行う。
- ウ：ブラークコントロールは重要である。
- エ：経時的モニタリングが必要である。

総合解説：SPTでは再発・進行を早期に発見し、必要な非外科的介入とセルフケア支援を行う。SPTは『クリーニングだけ』ではない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0134 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：標準

歯周メインテナンスの来院間隔について最も適切なものはどれか。

- ア．すべての患者を必ず同じ間隔にする。
- イ．高リスクほど来院間隔を長くする。
- ウ．歯周状態、喫煙、糖尿病、ブラークコントロールなどの再発リスクに応じて個別に設定する。
- エ．一度安定したら以後の来院は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：リスクに応じた個別化が必要である。
- イ：密な管理が必要なことが多い。
- ウ：継続管理の間隔は患者のリスクと病状安定性に応じて調整する。
- エ：再発リスクが残る。

総合解説：継続管理の間隔は患者のリスクと病状安定性に応じて調整する。固定的なりコールよりリスクベース管理が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0135 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：標準

SPT時にPCRが再び上昇していた。最も適切なのはどれか。

- ア．磨き残し部位と生活上の変化を確認し、患者と清掃法を再調整する。
- イ．一度指導済みなので再指導しない。
- ウ．術者によるPMTCだけで解決できると説明する。
- エ．患者を責めて管理を中止する。

答え・解説 正答：ア

- ア：SPTでは毎回セルフケア状況を確認し、必要に応じて指導内容を更新する。
- イ：セルフケアは経時的に変化する。
- ウ：日常のブラークコントロールが重要である。
- エ：原因を評価して支援する。

総合解説：SPTでは毎回セルフケア状況を確認し、必要に応じて指導内容を更新する。生活状況や身体機能の変化も確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0136 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：標準

SPT中に一部の深いポケットでBOPが再出現した。最も適切なのはどれか。

- ア．SPT中は再発しないのでBOPを無視する。
- イ．BOPが1か所でもあれば全歯抜歯する。
- ウ．管理間隔を無条件に長くする。
- エ．その部位のブラーク、歯石、根面形態、咬合、全身リスクを再評価し、必要な再治療を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：SPT中でも再発・進行し得る。
- イ：病変部位を個別評価する。
- ウ：再発部位では管理強化を検討する。
- エ：SPTでは再発を早期発見し、必要部位へ再介入することで歯周組織の安定維持を図る。

総合解説：SPTでは再発を早期発見し、必要部位へ再介入することで歯周組織の安定維持を図る。継続管理中も診断と治療計画は更新される。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0137 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：標準

SPT中の患者が新たに糖尿病コントロール不良となった。最も適切なのはどれか。

- ア．口腔所見と無関係なので情報を無視する。
- イ．歯周リスク上昇を考慮し、口腔状態と管理間隔を再評価し、必要に応じ医科と連携する。
- ウ．自己判断で糖尿病薬を中止させる。
- エ．病状が悪化してもSPT間隔を延長する。

答え・解説 正答：イ

- ア：糖尿病は歯周病リスクに関係する。
- イ：SPTでは患者の全身状態変化も定期的に確認し、歯周リスクへ反映する。
- ウ：処方医との連携が必要である。
- エ：高リスク化では管理強化を検討する。

総合解説：SPTでは患者の全身状態変化も定期的に確認し、歯周リスクへ反映する。医科歯科連携は高リスク患者の長期管理に重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0138 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：標準

患者が『SPTは毎回PMTCを受けるだけですか』と質問した。最も適切な説明はどれか。

- ア．SPTとPMTCは完全に同義である。
- イ．SPTでは歯周組織の検査を行わない。
- ウ．SPT中は歯石を除去してはいけない。
- エ．SPTは歯周検査・リスク評価・セルフケア支援を行い、必要に応じPMTCやSRP等を組み合わせる継続管理である。

答え・解説 正答：エ

- ア：SPTは評価と必要な介入を含む広い管理である。
- イ：病状のモニタリングが必要である。
- ウ：必要に応じSRP等を行う。
- エ：SPTは単一手技ではなく、再評価と個別的介入を組み合わせたサポート療法である。

総合解説：SPTは単一手技ではなく、再評価と個別的介入を組み合わせたサポート療法である。PMTCはSPTの一構成要素になり得る。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0139 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：応用

歯周病高リスク患者がSPT予約を何度も中断している。最も適切な対応はどれか。

- ア．来院できない患者は直ちに管理対象から永久除外する。
- イ．欠席理由を確認せず責める。
- ウ．中断理由や生活背景を確認し、通院可能な間隔・方法を相談しながら再継続を支援する。
- エ．高リスクでも中断の影響を説明しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：継続可能な方法を検討する。
- イ：行動障壁の把握が重要である。
- ウ：長期管理では臨床処置だけでなくアドヒアランスを支えることが重要である。
- エ：再発・進行リスクを共有する。

総合解説：長期管理では臨床処置だけでなくアドヒアランスを支えることが重要である。患者の生活条件に合わせた現実的な計画を作る。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0140 メインテナンス > SPT・メインテナンス | 難易度：応用

SPT中の複数回の記録を比較した結果、PPD増加、BOP増加、骨吸収進行がみられた。最も適切なのはどれか。

- ア．病状進行と判断して原因・リスクを再評価し、必要な歯周治療計画へ戻る。
- イ．SPT中なので病状進行は起こらないと判断する。
- ウ．数値変化を記録せず同じ管理だけ続ける。
- エ．患者のセルフケアや全身リスクを確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：SPTの目的は進行を見逃さず、必要時に再治療へ移行することである。
- イ：SPT中でも進行することがある。
- ウ：治療計画の見直しが必要である。
- エ：進行因子を評価する。

総合解説：SPTの目的は進行を見逃さず、必要時に再治療へ移行することである。長期記録の比較は病状安定か進行かを判断する基礎になる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0141 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：基礎

歯科予防処置における標準予防策の対象はどれか。

- ア．B型肝炎患者だけ
- イ．感染症の診断の有無にかかわらず、すべての患者
- ウ．発熱患者だけ
- エ．外科手術患者だけ

答え・解説 正答：イ

- ア：標準予防策は全患者に適用する。
- イ：標準予防策は全患者に適用する最低限の感染予防策である。
- ウ：症状の有無にかかわらず適用する。
- エ：予防処置を含む全ての患者ケアに適用する。

総合解説：標準予防策は全患者に適用する最低限の感染予防策である。手指衛生、PPE、鋭利器材安全、滅菌等を含む。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0142 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：基礎

使用済みの鋭利器材を扱う際に最も適切なのはどれか。

- ア．素手で刃先を直接つかむ。
- イ．血液・唾液で汚染された鋭利器材を感染性と考え、刺傷を避ける作業手順で処理する。
- ウ．器具を見えない洗浄槽へ無造作に手を入れて探す。
- エ．汚染器具を一般物品と混在させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：刺傷・血液曝露の危険がある。
- イ：スケーラーや針など血液・唾液で汚染された鋭利物は職業曝露リスクがある。
- ウ：鋭利器材による損傷リスクが高い。
- エ：安全な分別・再処理が必要である。

総合解説：スケーラーや針など血液・唾液で汚染された鋭利物は職業曝露リスクがある。器具回収から洗浄・廃棄まで刺傷防止を設計する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0143 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：基礎

汚染された鋭利器材で手指を切った直後の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．傷口を放置して勤務を続ける。
- イ．傷を強く切り広げる。
- ウ．事故を記録せず秘密にする。
- エ．石けんと水で洗浄し、事故を報告して速やかに医学的評価を受ける。

答え・解説 正答：エ

- ア：曝露後評価が必要である。
- イ：推奨される初期対応ではない。
- ウ：迅速な曝露後対応を妨げる。
- エ：CDCは針刺し・切創時に洗浄、報告、速やかな医学的評価と必要な曝露後処置を推奨する。

総合解説：CDCは針刺し・切創時に洗浄、報告、速やかな医学的評価と必要な曝露後処置を推奨する。血液曝露は時間依存の対応が必要な場合がある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0144 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：標準

長時間のSRP予定患者で、糖尿病治療中・朝食未摂取であることが分かった。最も適切なのはどれか。

- ア．全身状態は歯周処置と無関係なのでそのまま開始する。
- イ．患者へ糖尿病薬を自己判断で追加服用させる。
- ウ．症状が出るまで問診しない。
- エ．低血糖リスクを考慮して食事・服薬・血糖状態を確認し、安全に処置できるか再評価する。

答え・解説 正答：エ

- ア：低血糖等の偶発症リスクがある。
- イ：医療指示なく変更してはいけない。
- ウ：予防的な事前確認が重要である。
- エ：医療事故予防では偶発症が起こる前に既往・服薬・食事・バイタル等を評価する。

総合解説：医療事故予防では偶発症が起こる前に既往・服薬・食事・バイタル等を評価する。処置内容と患者全身状態を組み合わせて判断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0145 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：標準

予防処置中に顔面蒼白、冷汗、意識消失がみられ失神が疑われる。最初に行う対応として最も適切なのはどれか。

- ア．意識がないまま処置を続ける。
- イ．患者を一人にして退室する。
- ウ．直ちに飲水させる。
- エ．処置を中止し、安全な体位を確保して気道・呼吸・循環を評価する。

答え・解説 正答：エ

- ア：安全確保を優先する。
- イ：継続的観察が必要である。
- ウ：意識障害時の経口摂取は誤嚥リスクがある。
- エ：歯科診療室の偶発症では処置中止、体位、循環・気道・呼吸の評価を基本に対応する。

総合解説：歯科診療室の偶発症では処置中止、体位、循環・気道・呼吸の評価を基本に対応する。回復しない場合や異常所見があれば救急要請を検討する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0146 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：標準

予防処置で使用した薬剤後に全身じんま疹、呼吸困難、血圧低下が急速に出現した。最も適切なのはどれか。

- ア．アナフィラキシーを疑い、処置を中止して緊急対応・救急要請を行う。
- イ．局所の違和感だけと判断して処置を続ける。
- ウ．患者を帰宅させて経過観察だけとする。
- エ．呼吸・循環状態を確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：呼吸困難・循環不全を伴う急性全身アレルギーは緊急対応が必要である。
- イ：生命を脅かすアレルギー反応の可能性がある。
- ウ：緊急治療が必要となり得る。
- エ：ABCの評価が重要である。

総合解説：呼吸困難・循環不全を伴う急性全身アレルギーは緊急対応が必要である。薬剤使用前のアレルギー歴確認も重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0147 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：標準

幼児へ専門的フッ化物塗布を行う際の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア．薬剤を大量に口腔内へ貯留させる。
- イ．年齢に適した剤型と必要最小量を用い、嚥下を最小限にする体位・吸引・操作を行う。
- ウ．嚥下能力を確認しない。
- エ．高濃度剤ほど量を増やす。

答え・解説 正答：イ

- ア：嚥下量が増える危険がある。
- イ：高濃度フッ化物は局所に少量使用し、特に小児では嚥下を最小化する。
- ウ：年齢・協力度を評価する。
- エ：安全な必要量を守る。

総合解説：高濃度フッ化物は局所に少量使用し、特に小児では嚥下を最小化する。処置前に保護者へ説明し、処置中は患者を観察する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0148 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：標準

超音波スケーリングを行う際に飛散・エアロゾル曝露を減らす方法として最も適切なものはどれか。

- ア．眼・顔面防護を行わない。
- イ．患者が感染症と診断されていなければPPEは不要とする。
- ウ．吸引を使わず術者の顔を処置部位へ近づける。
- エ．適切なPPEを装着し、高容量吸引を併用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：飛散曝露リスクがある。
- イ：標準予防策は全患者に適用する。
- ウ：曝露を増やす。
- エ：超音波処置は水・唾液を含む飛散を生じるためPPEと高容量吸引が重要である。

総合解説：超音波処置は水・唾液を含む飛散を生じるためPPEと高容量吸引が重要である。感染対策は患者診断名だけでなく処置リスクで決める。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0149 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：応用

深い歯周ポケットでキュレット先端が破折し、口腔内で破折片が見当たらない。最も適切なのはどれか。

- ア．直ちに処置を中止し、口腔内・咽頭を確認して歯科医師へ報告し、誤嚥・誤飲の可能性を評価する。
- イ．破折を患者に伝えず処置を続ける。
- ウ．同じ破損器具を再使用する。
- エ．破折片の所在を確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：器具破折は異物誤嚥・誤飲や組織損傷につながる可能性があるため、処置中止と所在確認を優先する。
- イ：患者安全を損なう。
- ウ：さらなる破折リスクがある。
- エ：誤嚥・誤飲や組織内残留を評価する必要がある。

総合解説：器具破折は異物誤嚥・誤飲や組織損傷につながる可能性があるため、処置中止と所在確認を優先する。予防には器具の亀裂・摩耗点検が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0150 メインテナンス > 予防処置の安全管理・偶発症 | 難易度：応用

歯科診療室の偶発症対策として最も適切なのはどれか。

- ア．緊急時の役割分担、救急要請手順、BLS、薬剤・機器の点検を定期的に訓練・確認する。
- イ．緊急事態はめったにないので訓練しない。
- ウ．救急薬品の期限を確認しない。
- エ．事故時の報告手順を決めない。

答え・解説 正答：ア

- ア：ADAは医療緊急事態に備え、行動計画、職員教育、緊急薬剤・機器、定期訓練を推奨している。
- イ：日常的に使わない技能ほど定期確認が必要である。
- ウ：使用可能性を定期点検する。
- エ：迅速な対応のため計画が必要である。

総合解説：ADAは医療緊急事態に備え、行動計画、職員教育、緊急薬剤・機器、定期訓練を推奨している。安全管理は個人技ではなく組織的な準備で支える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05